

# 研究者総覧 **2010**

# 新潟国際情報大学の「研究者総覧」(2010)について

本学は、「国際化、情報化された現代社会で役に立つ人物を育成する」を建学の目的に設立されて、本年で17年目を迎えました。この間、地域社会に多くの人材を輩出し、着実に建学の目的に向かって歩んで参りました。

本学は、この目的を果たすため情報文化学部の下に情報文化学科と情報システム学科の2学科を設置し、二つの学科において建学の目標達成を図っています。両学科とも分野は異なりますが、少人数による実践的教育、語学教育の徹底、人間性豊かな人材の育成を共通の理念にしながら努めています。

こうした教育理念を実現するため、本学ではそれにふさわしい教員とそれをサポートする職員が集まって、力をあわせて研究と教育に専念しています。そのため、教員には情報システム学科に企業出身者が、情報文化学科に米国、中国、韓国、ロシア等海外出身の教員が多いのが特徴です。総合大学ではない本学では、逆にその特性を生かして国際化と情報化をキーワードとする研究テーマに絞って、ユニークかつ実践的研究を行っています。

またこうした教員の地域への貢献も図ろうと、新潟市内の中心部にあります新潟中央キャンパスにエ

クステンションセンターを設置し、市民の皆様等に生涯学習講座を開設、講師の一部を務めています。


この「研究者総覧」はこうした本学の教員を多くの方々に知って頂き、その知的財産としての知識や研究成果が幅広く地域で役立ちますことを願って、まとめたものであります。本学の職員、学生にとどまらず他大学、高等学校関係者、企業、行政関係者など多くの方々から本学の教員を知り、活用頂きたいと願っております。

総覧をお送りし、本学の教育研究者をご紹介申しますとともに、この総覧がこうした初期の目的を果たすことが出来ますことを切に願っております。

2010年4月

新潟国際情報大学長 平山征夫

## 凡 例

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○	
	氏 名 ○○○○
	性 別 ○
	生 年 月 日 ○○○○
	職 名 ○○○○
	連 絡 方 法 ○○○○
	学 位 歴 ○○○○
	職 歴 ○○○○
	受 賞 歴 ○○○○
	研 究 分 野 ○○○○
	主 要 業 績 ○○○○
	所 属 学 会 ○○○○
	そ の 他 ○○○○

### 収録内容

平成 22 年 4 月 1 日現在で本学に在職する専任の教員（教授、准教授、講師並びにインストラクター）を収録し、記載事項については、平成 22 年 4 月 1 日現在のものとした。

### 掲載順

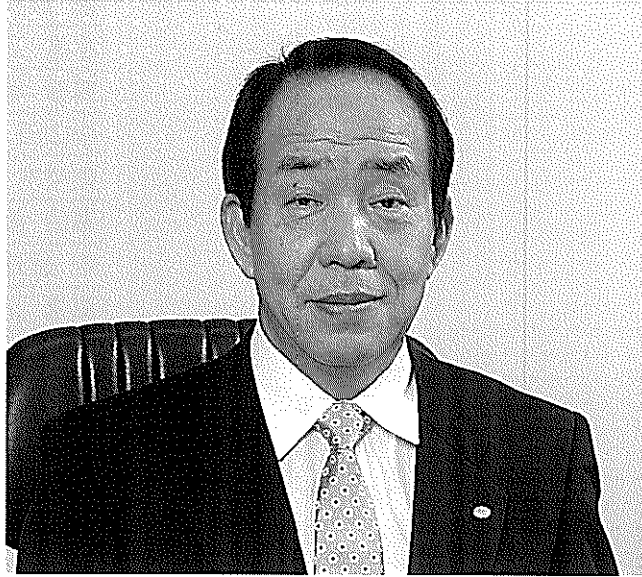
学長並びに本学を構成する教員を学科毎に掲載し、その所属ごとに教授、准教授、講師、インストラクターの順とした。

### 掲載事項

- 氏 名 フリガナ ローマ字を付記。  
性 別 男・女の別を記載。  
生 年 月 日 西暦で記載。  
職 名 現在の職名及び（ ）書きで就任年月を記載。  
学部長、学科長にあつては、その職名を記載。  
連 絡 方 法 Eメール(電子メール)アドレスを記載。  
学 歴 大学等及び大学院を記載。なお、大学院博士課程の単位取得満期退学も記載。  
学 位 学位名、授与大学名、取得年月を記載。  
職 歴 職名、在職期間を併記。(間近の経歴を含む。)  
受 賞 歴 主要な経歴学術に関する受賞状況について、賞の名称、受賞年月を記載。  
研 究 分 野 現在の研究テーマについて記載。  
主 要 業 績 過去に発行した著書・学術論文のうちから主なものをその題名、発行年月、誌名・発行所を記載。  
所 属 学 会 主なものを記載。  
そ の 他 所属する委員会や研究会等、特記すべき事項を記載。

## 目次

学長	5
情報文化学科	8
白井 陽一郎	10
區 建英	11
小澤 治子	12
越智 敏夫	13
小山田 紀子	14
佐々木 寛	15
澤口 晋一	16
申 銀珠	17
高橋 正樹	18
グレゴリー ハドリー	19
アレクサンドル プラーソル	20
安藤 潤	21
熊谷 卓	22
小林 元裕	23
矢口 裕子	24
吉澤 文寿	25
松尾 瑞穂	26
ポール ナダスディ	27
マイケル ルディック	28
情報システム学科	30
上西園 武良	32
岸野 清孝	33
桑原 悟	34
近藤 進	35
笹川 壽昭	36
白井 健二	37
高木 義和	38
竹並 輝之	39
槻木 公一	40
西山 茂	41
藤瀬 武彦	42
山口 直人	43
石井 忠夫	44
石川 洋	45
大野 富彦	46
小野 陽子	47
小宮山 智志	48
佐々木 桐子	49
二瀬 由理	50
吉田 博	51
河原 和好	52
中田 豊久	53
山下 功	54



## 学 長

氏 名	平山 征夫 HIRAYAMA Ikuo
性 別	男
生 年 月 日	1944年7月21日生
職 名	学長 (2008年4月)
連 絡 方 法	E-mail : hirayama@nuis.ac.jp
学 歴	1967年 横浜国立大学経済学部経済学科卒業
職 歴	1967年 4月 日本銀行入行
	1985年11月 // 総務局広報課長
	1987年 7月 // 電算情報局総務課長
	1988年 5月 // 新潟支店長
	1992年 5月 // 仙台支店長
	1992年10月 新潟県知事就任
	1996年10月 // 再任
	2000年10月 // 三選
	2004年10月 // 退任
	2005年 4月 国立大学法人・長岡技術科学大学特任教授就任
	2008年 3月 // 退任
	2008年 4月 新潟国際情報大学学長就任

<b>研究分野</b>	<p>実践から見た地域経営・地域政策 地方自治の課題とあり方</p> <p>企業の社会的役割など実践的企業論 組織の安全管理の課題</p> <p>地域経済としての産業・地域金融</p> <p>原子力発電等エネルギー立地論 地球環境と共生問題</p> <p>東アジア（特に北東アジア経済圏問題）経済論</p> <p>－これらテーマについて、行政の首長経験を踏まえた実践的な有効な政策立案を目指した研究を志向</p>
<b>主要業績</b>	<p>著書</p> <p>①「私はこんな知事になりたかった」（朝日新聞出版社）</p> <p>②「平成大合併 新潟県の軌跡」（共著）（社・新潟県自治研修センター 新潟日報事業社）など</p>
<b>その他</b>	<p>ロシア科学アカデミー極東支部経済研究所名誉博士</p>

# 情報文化学科

---

臼井 陽一郎

區 建英

小澤 治子

越智 敏夫

小山田 紀子

佐々木 寛

澤口 晋一

申 銀珠

高橋 正樹

グレゴリー ハドリー

アレクサンドル プラーソル

安藤 潤

熊谷 卓

小林 元裕

矢口 裕子

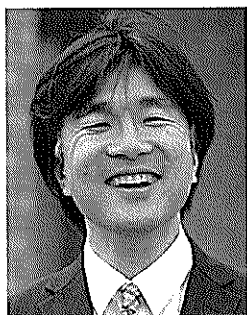
吉澤 文寿

松尾 瑞穂

ポール ナダスディ

マイケル ルディック





- 氏名 臼井 陽一郎 USUI Yoichiro  
 性別 男  
 生年月日 1965年8月10日生  
 職名 教授 (2005年4月)  
 連絡方法 E-mail : usui@nuis.ac.jp  
 学歴 1989年 早稲田大学社会科学部卒業  
 1992年 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了  
 1995年 早稲田大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学  
 学位 修士 (早稲田大学経済学研究科)、MA by research (リーズ大学法学部)  
 職歴 1994 ~ 1996年 早稲田大学社会科学部助手  
 研究分野 EU政治、EU環境政策。  
 主要業績 著書
- ① (共著)『EU環境法』(庄司克宏編著) 慶應義塾大学出版会、2009年。
  - ② (共著) *East Asian Regionalism from a Legal Perspective: Current Features and a Vision for the Future*. Ed. by Tamio Nakamura. London: Routledge, 2009.
  - ③ (共著)『東アジア共同体憲章案:実現可能な未来をひらく論議のために』(中村民雄編著) 昭和堂、2008年。
  - ④ (共著)『国際機構』(庄司克宏編著) 岩波書店、2006年。
  - ⑤ (共著)『EU研究の新地平:前例なき政体への接近』(中村民雄編著) ミネルヴァ書房、2005年。
  - ⑥ (共著)『アクセス地域研究II:先進デモクラシーの再構築』(小川有美・岩崎正洋編著) 日本経済評論社、2004年。
  - ⑦ (共著)『甦るコミュニティ:哲学と社会科学の対話』(田村正勝編著) 文眞堂、2003年。
  - ⑧ (共著)『世界システムのゆらぎの構造:EU・東アジア・世界経済』(田村正勝編著) 早稲田大学出版部、1998年。
- 論文
- ① 「EUの持続性戦略と欧州統合の行方」『日本EU学会年報』第29号、2009年。
  - ② 'The Democratic Quality of Soft Governance in the EU Sustainable Development Strategy: A Deliberative Deficit.' *Journal of European Integration*. Vol.29:5, pp.619-633, December 2007.
  - ③ 'An Evolving Path of Regionalism: The Construction of an Environmental Acquis in the EEC and ASEAN'. In T.Nakamura ed., *The Dynamics of East Asia Regionalism Comparative Perspective*. ISS Research Series No.24, 2007, pp.31-66.
  - ④ 「気候変動問題の構成と国際共同行動の展開:気候変動レジーム・国連環境計画・欧州連合(1)(2)(3)」『慶應法学』第5・6・8号、2006/07年。
  - ⑤ 'The Roles of Soft Law in EU Environmental Governance: An Interface between Law and Politics'. 『日本EU学会年報』第26号、2006年。
  - ⑥ 'The Principle of Environmental Integration in the European Union: From a Discursive Constructivism'. 『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第8号、2005年。
  - ⑦ 'Evolving Environmental Norms in the European Union'. *European Law Journal*. Vol.9:1, 2003.
  - ⑧ 「EUの特異性と規範の進化」『社会科学研究』(東京大学社会科学研究所)第54巻・第1号、2003年。
  - ⑨ 'Norm Evolution in EC Environmental Law'. *Constitutionalism Web Papers (ConWEB)*. No.1 / 2002.
- 所属学会 UACES (英国EU学会)、EUSA (米国EU学会)、日本EU学会、比較政治学会

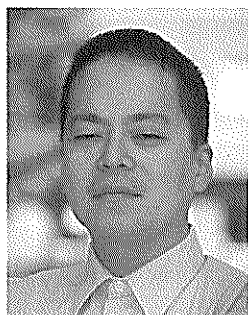




- 氏名 区 建英 OU Jianying  
 性別 女  
 生年月日 1955年10月27日生  
 職名 教授(1998年4月)・学生部長  
 連絡方法 E-mail: ou@nuis.ac.jp  
 学歴 1982年 広州外国語大学 日本語文学科卒業  
 1984年 北京師範大学歴史学系修士課程卒業(文学修士)  
 1993年 東京大学大学院博士課程修了  
 学位 博士(学術、東京大学、1993年3月)  
 職歴 1984～1993年(中国)暨南大学歴史学部専任講師  
 1988～1995年 学習院大学文学部兼任講師  
 1993～1994年 東京大学教養学部客員研究員  
 1994～1997年 新潟国際情報大学助教授  
 研究分野 中国の民主化と多民族社会。中国は発展途上国として、また多民族国家として様々な苦悩を抱えている。私は主として、近代中国の民主化と民族のあり方に関する思想や論理の変化を解明し、これによって、現代中国社会のあり方を規定する諸要因を把握したい。その手がかりとして研究している中国の思想家は嚴復である。また、比較研究という視点から、福沢諭吉の思想をはじめ日本近代思想を研究している。同時に、グローバル化における中国の思想や論理の変遷にも注目していきたい。  
 主要業績 著書  
 ①『日本の市民社会』(監修)(新世紀出版社 1992年)  
 ②『福沢諭吉と日本近代化』原著者・丸山真男(編集・翻訳)(学林出版社 1992年)  
 ③『近代日本と東アジア』(共著)(筑摩書房 1995年)  
 ④『日本立憲政治の形成と変質』(共著)(吉川弘文館 2005年)  
 ⑤『日本の思想』原著者・丸山真男(共訳)(生活・読書・新知 三聯書店 2009年)  
 ⑥『自由と国民 嚴復の模索』(東京大学出版会 2009年)  
 論文  
 ①「中国における福沢諭吉理解」(日本歴史学会編 日本歴史 1992年2月号)  
 ②「福沢諭吉研究と丸山真男」(みすず書房 みすず 1992年10月号)  
 ③「励みと悲しみ——近代中国と日本」(岩波書店 世界 1995年3月号)  
 ④「丸山真男における国民国家と永久革命」(歴史学研究会編 歴史学研究 1998年3月号)  
 ⑤「嚴復の政治学における国家理論」(慶應義塾福沢研究センター 近代日本研究 第17巻)  
 ⑥「嚴復の老荘注釈における意味」(慶應義塾福沢研究センター 近代日本研究 第18巻)  
 ⑦「嚴復とモンテスキュー:『仁政』の転回と政治的自由」(専修大学歴史学センター年報『フランス革命と日本・アジアの近代化』第4号2007年)  
 ⑧「清末の『種族』論とナショナル・アイデンティティ」(『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第10号2007年)  
 ⑨「中国のナショナリズム形成 — 日清戦争後の移り変わりと辛亥革命 —」(『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第12号2009年)  
 所属学会 中国社会文化学会・アジア政経学会・政治思想学会  
 中国・中国日本史学会(理事)  
 アメリカ・American Political Science Association  
 その他 1986年に東京大学大学院で近代日本思想を研究するために来日。以後同大学院で研究するかたわら、学習院大学で兼任講師をつとめ、また慶應義塾福沢研究センター、東京大学教養学部の客員研究員を兼務した。



- 氏名 小澤 治子 OZAWA Haruko  
 性別 女  
 生年月日 1956年4月27日生  
 職名 教授(1999年4月)  
 連絡方法 E-mail: haruko@nuis.ac.jp  
 学歴 1979年 上智大学外国語学部ロシア語学科卒業  
 1986年 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学  
 学位 博士(法学)(慶應義塾大学、2000年3月)  
 職歴 日本国際問題研究所ロシア研究センター研究員  
 1995年 新潟国際情報大学助教授
- 研究分野 主な研究分野は、20世紀の日ソ・日ロ関係の歴史を東アジアの国際関係の中で考察することである。特に1917年のロシア革命、また第2次世界大戦、さらにはペレストロイカからソ連解体にいたる時期に関心をもって研究を進めてきた。
- 主要業績 著書
- ①『ロシアの対外政策とアジア太平洋一脱イデオロギーの検証』(単著)(有信堂、2000年)
  - ②『日本の岐路と松岡外交—1940～41年—』(共著)(南窓社、1993年)
  - ③『アジアの中の日本と中国—友好と摩擦の現代史』(共著)(山川出版社、1995年)
  - ④『東アジアのロシア』(共著)(慶應義塾大学出版会、2004年)
- 論文
- ①「ソビエト政権初期の対日政策(1917.11～1921.8)—対米政策との関連で」(慶應義塾大学法学研究会法学研究第63巻第2号、1990年2月)
  - ②「ゴルバチョフ政権と日米関係—安保条約容認をめぐる対日政策形成機構の認識を中心に」(ソ連研究第11号、1990年10月)
  - ③「ソ連における日本軍国主義観—ブレジネフからゴルバチョフへ—」(外交時報第1276号、1991年3月)
  - ④「真珠湾とソ連外交—1941年日本をめぐる米ソ関係」(軍事史学第27巻第2・3合併号、1991年12月)
  - ⑤「ワシントン会議とソビエト外交—極東共和国の役割を中心に」(政治経済史学第307号、1992年1月)
  - ⑥「アメリカ国務省の対ソ認識(1917.11～1918.7)—駐ロシア大使フランスの役割を中心に」(慶應義塾大学法学研究会法学研究第66巻第2号、1993年2月)
  - ⑦「モスクワと極東、アジア・太平洋—ロシアの対外政策路線の一考察」(外交時報第1302号、1993年10月)
  - ⑧「ペレストロイカとソ連のアジア・太平洋観」(ロシア研究第18号、1994年4月)
  - ⑨「冷戦構造崩壊後のロシアの対外政策—中東欧の位置づけを軸に」(慶應義塾大学法学研究会法学研究第67巻第12号、1994年12月)
  - ⑩「NATO拡大問題とCIS—ロシアの対外政策における位置づけ—」(新潟国際情報大学情報文化学部紀要第1号、1998年3月)
  - ⑪「ロシアの対外政策における中国—戦略的パートナーシップの限界—」(新防衛論集第25巻第4号、1998年3月)
  - ⑫「APEC加盟問題とロシア—アジア太平洋国際経済協力体制におけるロシア極東」(海外事情第46巻第9号、1998年9月)
  - ⑬「NATOの東方拡大とロシア—ロシアにおける国家安全保障観との関連で—」(新潟国際情報大学情報文化学部紀要第4号、2001年3月)
  - ⑭「ロシアの外交戦略と米国のユニラテラリズム—イラク戦争をめぐる米ロ関係を中心に—」(ロシア・東欧研究第33号、2005年9月)
- 所属学会 ロシア東欧学会・日本国際政治学会・アジア政経学会・軍事史学会・ロシア史研究会



氏名 越智 敏夫 OCHI Toshio  
 性別 男  
 生年月日 1961年7月7日生  
 職名 教授(2006年4月)・情報文化学部長  
 連絡方法 E-mail: tochi@nuis.ac.jp  
 学歴 1986年 立教大学法学部卒業  
 1992年 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学  
 学位 法学修士(慶應義塾大学政治学専攻、1988年3月)  
 職歴 1992～1994年 立教大学法学部助手  
 1994～1996年 シカゴ大学客員研究員  
 1996年 新潟国際情報大学専任講師  
 2002～2003年 ニューヨーク大学招聘研究員

**研究分野** 現代政治理論、アメリカ政治論。  
 現代政治理論の発展と市民社会・政治文化の関連の研究。主にアメリカ合衆国を中心にした先進資本主義諸国における政治的理念の展開を現実政治との関係のなかで考察する。国民国家を中心概念とした一元的な政治統合の態様を批判的に検討し、その代替物の可能性を政治理論的課題として考えたい。またその議論の前提としておきたいのは、目の前にある政治制度や政治体制は所与のものとして存在しているのではなく、それらはいくまでも変革可能な「状況」論理のもとに置かれているということである。

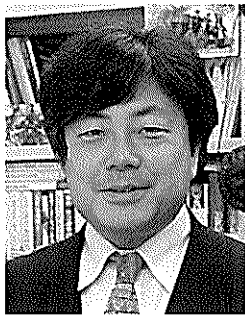
**主要業績** 著書  
 ①『現場としての政治学』(共著、日本経済評論社、2007年)  
 ②『東アジア〈共生〉の条件』(共著、世織書房、2006年)  
 ③『現代市民政治論』(共著、世織書房、2003年)  
 ④『講座政治学 第一巻・政治理論』(共著、三嶺書房、1999年)  
 ⑤『グローバル・デモクラシーの政治空間』(共著、東信堂、1997年)

論文  
 ①「アメリカ国家思想の文化的側面：その政府不信と体制信仰について」(政治思想研究、第7号、2007年)  
 ②「市民文化論の統合的機能：アメリカ社会の『自己正当化』について」(新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第9号、2006年)  
 ③“Erasing Memories, Preserving Memories: Political Meanings of Pollution and Antipollution Movements in Cold War Japan,” *Journal of Pacific Asia*, vol.12, 2005.  
 ④「フィクションに見る市民の司法参加」(法学セミナー増刊Causa第3号、2002年)  
 ⑤「司法制度改革の政治的意義」(月刊司法改革第20号、2001年)  
 ⑥「アメリカ合衆国におけるマイノリティ文化の人為的形成」(地域文化研究第4号、2000年)

**所属学会** 日本政治学会  
 日本アメリカ学会  
 American Political Science Association  
 政治思想学会  
 地域文化学会



- 氏名 小山田 紀子 OYAMADA Noriko  
 性別 女  
 生年月日 1953年11月27日生  
 職名 教授(2005年4月)・情報文化学科長  
 連絡方法 E-mail: oyamada@nuis.ac.jp  
 学歴 1978年 津田塾大学学芸学部国際関係学科卒業  
 1984年 津田塾大学大学院国際関係学研究科博士課程単位取得満期退学  
 学位 国際学修士(津田塾大学、1981年)  
 職歴 1987～1989年 日本学術振興会特別研究員  
 1987～1991年 神奈川大学外国語学部・法学部非常勤講師  
 1992～2005年 吉備国際大学社会学部専任講師・助教授(1995年～)
- 研究分野 マグレブ近現代史。北西アフリカのマグレブ(狭義には、チュニジア・アルジェリア・モロッコの旧フランス植民地をさす西方アラブ圏諸国)の地域研究を行ってきた。とりわけアルジェリアのフランス植民地化の歴史と脱植民地化の問題を研究対象としている。
- 主要業績 著書  
 ①『アルジェリアを知るための62章』(共著)(2009年、明石書店)  
 ②『イスラーム研究ハンドブック』(共著)(1995年、栄光教育文化研究所)  
 ③『イスラーム事典』(共著)(2002年、岩波書店)  
 ④『マグリブへの招待 ― 北アフリカの社会と文化』(共著)(2008年3月、大学図書出版)
- 論文  
 ①「フランス植民地化前アルジェリアの土地制度」『国際関係学研究』第8号、津田塾大学、1982年3月  
 ②「独立後のチュニジアにおける農業政策の展開」『国際関係研究所報』第17号、津田塾大学、1985年3月  
 ③「独立戦争前夜のアルジェリアにおける農業構造 ― 1950・51年農業セサス分析に基づく試論 ―」『国際関係学研究』No.12別冊、1986年3月  
 ④「植民地アルジェリアにおける行政町村の形成」『歴史学研究』第633号、青木書店、1992年6月  
 ⑤「19世紀初頭の地中海と“アルジェリア危機” ― トルコ政権崩壊の過程に関する ― 考察 ―」『歴史学研究』第692号、1996年12月  
 ⑥「アルジェリアにおける1863年元老院決議(土地法)の適用と農村社会の再編 ― 植民地行政町村の形成をめぐって ―」『国際社会学研究所紀要』第8号、2001年3月  
 ⑦「幕末日本のフランス公使レオン・ロッシュの生涯(覚書) ― フランス・マグレブ・日本をつなぐ人物像 ―」『人間と社会 ― 知識人の時代批判』吉備国際大学社会学部共同研究成果報告書、2003年3月  
 ⑧「『アルジェリア社会主義農業の構造改革』再考 ― 1980年代のティアレット県トゥニエ・テル・ハアド郡における生産組織の再編成をめぐって ―」『吉備国際大学社会学部研究紀要』第14号、2004年3月  
 ⑨「アルジェリアにおける1873年ワルニ工法と私的土地所有権の成立」『国際関係学研究』第31号、津田塾大学、2005年3月  
 ⑩「アルジェリア独立戦争と農村社会の変動 住民再編成の政策をめぐって ―」『吉備国際大学社会学部研究紀要』第15号、2005年3月  
 ⑪「アルジェリア『内戦』の傷跡 ― 2005年春の旅から ―」津田塾大学『国際関係研究所報』第41号、2006年12月  
 ⑫「Mediterranean Powers and the ‘Algerian Crisis’ at the Beginning of the 19th Century」『上智アジア学』第24号、2006年12月  
 ⑬「人の移動からみるフランス・アンジェリア関係史―脱植民地化と『引揚者』を中心に―」『歴史学研究』No846、2008年10月
- 所属学会 日本中東学会、日本アフリカ学会、歴史学研究会、日本社会学会



氏名	ササキ ヒロシ 佐々木 寛 SASAKI Hiroshi
性別	男
生年月日	1966年6月29日生
職名	教授(2008年4月)
連絡方法	E-mail: shiroshi@nuis.ac.jp
学歴	1990年 立教大学法学部卒業 1996年 中央大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学
学位	法学修士(中央大学、1993年3月)
職歴	1996年～1998年 立教大学法学部助手 1998年～2000年 日本学術振興会特別研究員(PD)・中央大学法学部兼任講師 2000年～2003年 新潟国際情報大学情報文化学部専任講師 2003年～2008年 同大学准教授 2008年～2009年 カルフォルニア大学バークレー校客員研究員
研究分野	「グローバル・デモクラシー(地球民主主義)」の理論的研究 国境を越える社会運動およびNGOの政治学的分析 東アジアの安全保障問題をめぐる理論的・実証的研究 現代戦争論
主要業績	著書・論文・その他 ①「平和研究の理論的地平 — 21世紀の平和秩序を求めて」『平和研究』第20号(日本平和学会)1996年6月 ②「『グローバル・デモクラシー』論の構成とその課題 — D.ヘルドの理論をめぐって」『立教法学』第48号(立教大学)1998年2月 ③「『地球社会』と民主主義原理 — 『オタワ・プロセス』を考える」『立教法学』第55号(立教大学)2000年4月 ④「グローバルな『全体主義』と『新しい戦争』」『歴史地理教育』第612号2000年8月 ⑤『平和研究 第26号 — 新世紀の平和研究』(早稲田大学出版部)(編著)2001年11月 ⑥「Atom-Politics in East Asia: Towards a Border-less Democracy」『情報文化学部紀要』第5号(新潟国際情報大学)2002年3月 ⑦「世界政治と市民 — 現代コスモポリタニズムの位相」高島通敏編『現代市民政治論』(世織書房)2003年2月 ⑧「イラク戦争と『安全保障』概念の基層」古城利明編『世界システムとヨーロッパ』(中央大学出版部)2005年3月 ⑨『東アジア安全保障の新展開』(明石書店)(共編著)2005年4月 ⑩「『戦争』を再考する」岡本三夫・横山正樹編『平和学のアジェンダ』(法律文化社)2005年5月 ⑪『東アジア〈共生〉の条件』(世織書房)(編著)2006年3月 ⑫「『平和』と『コミュニティ』 — グローバル化時代の『暴力』を越えて」宮島喬・五十嵐暁郎編『平和とコミュニティ—平和研究の新次元』(明石書店)2007年9月 ⑬「現代の平和主義」千葉眞編『平和の政治思想史』(おうふう)2009年8月 ⑭ M.ウォルツァー『グローバルな市民社会へ向かって』(日本経済評論社)(共訳)2001年10月 ⑮ D.ヘルド『デモクラシーと世界秩序』(NTT出版)(共訳)2002年12月 ⑯ P.ハースト『戦争と権力』(岩波書店)(単訳書)2009年2月 など。
所属学会	日本国際政治学会(将来構想委員) 日本平和学会(理事) 日本政治学会



- 氏名 サワグチ シンイチ 澤口 晋一 SAWAGUCHI Shin-ichi
- 性別 男
- 生年月日 1959年2月10日生
- 職名 教授 (2005年4月)
- 連絡方法 E-mail : sawashin@nuis.ac.jp
- 学歴 1983年 明治大学文学部史学地理学科地理学専攻卒業  
1992年 明治大学大学院文学研究科地理学専攻博士後期課程単位取得
- 学位 博士 (地理学) 明治大学、2001年3月
- 職歴 1990～1992年 日本学術振興会特別研究員  
1992～1996年 明治大学文学部・国土館大学文学部非常勤講師  
1994～1996年 東海大学文学部非常勤講師  
1996年 新潟国際情報大学専任講師
- 研究分野 ①高緯度極地と中緯度高山山地における地形プロセスの比較研究。  
②氷河・周氷河地形に基づく氷期の古環境復元。
- 主要業績 著書  
①『デジタルブック最新第四紀学』(分担執筆) 第四紀学会 (2010年)  
②『100年の変貌 — 新旧地形図からみた新潟県』(分担執筆) 新潟日報事業社 (2010年)  
③『南アルプス — 地形と生物 —』(分担執筆) 静岡県 (2010年)  
④『山に学ぶ — 歩いて観て考える山の自然』(編著) 古今書院 (2005年)  
⑤『日本の地形3 東北』(分担執筆) 東京大学出版会 (2005年)  
⑥『百名山の自然学』(分担執筆) 古今書院 (2002年)  
⑦『第四紀露頭集 — 日本のテフラ』(分担執筆) (日本第四紀学会 1996年)  
⑧『世界の山々』(分担執筆) (古今書院 1995年)  
⑨『山の自然学入門』(分担執筆) (古今書院 1992年)
- 論文  
①「北上川上流域における周氷河インポリューション形成の年代」(季刊地理学 58-4.2007年)  
②「南アルプス大聖寺平の大型ソリフラクションロープ」増澤弘武編『南アルプスの自然』所収.2007年、静岡県  
③「Present-day Periglacial Environments in Central Spitsbergen, Svalbard」(Geographical Review of Japan, 77-5.2004年)  
④「北極圏カナダ、エルズミア島 オーブロイヤール湾地域における第四紀後期の氷河作用」(駿台史学.123号 2004年)  
⑤「Holocene Glacial Advances in Koryto Glacier, Kamchatka Russia」(Cryospheric Studies in Kamchatka II 1999年)  
⑥「スピッツベルゲン、ニューオールスンにおける地温観測」(地学雑誌107-5 1998年)  
⑦「北上山地における周氷河性斜面物質移動と凍上に関する野外実験」(地形 19-3 1998年)
- 所属学会 日本地理学会  
日本第四紀学会  
東北地理学会  
東京地学協会
- その他 ・1990～1992年および1994年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として北極圏スバルバル諸島調査  
・1997年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として、カムチャッカ半島調査  
・2001,2002年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として、カナダ北極圏エルズミア島、アクセルハイベルグ島調査。  
・2004年、アラスカ大学フェアバンクス校客員研究員



氏名 シン ウンジュ 申 銀珠 SHIN Eunju  
 性別 女  
 生年月日 1958年3月4日生  
 職名 教授(2006年4月)  
 連絡方法 E-mail: shin@nuis.ac.jp  
 学歴 韓国外国語大学及び大学院(修士課程)修了後、  
 お茶の水女子大学大学院人文科学研究科及び人間文化研究科修了  
 学位 博士(人文科学、お茶の水女子大学、1995年3月)  
 職歴 日本学術振興会外国人特別研究員、  
 名古屋大学言語文化部非常勤講師(1998.4～2001.3)  
 研究分野 韓国近代文学形成期における日本からの影響及び日韓近代文学の関連様相につ  
 いて。特に、日本統治期の朝鮮を描いた韓国と日本の文学作品及び〈在日文学〉  
 について研究を進めている。

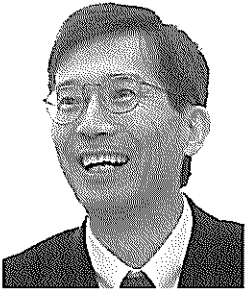
主要業績 論文

- ① 「韓国近代文学の中の日本文学—『創造』『廃墟』の翻訳詩を中心として—」  
 (単著)『人間文化研究年報』第16号(お茶の水女子大学、1993.2)
- ② 「朱耀翰と川路柳虹」(単著)『淵叢』第2号(淵叢の会、1993.3)
- ③ 「〈朝鮮〉から見た中野重治—植民地知識人の自画像を求めて—」(単著)  
 『国際日本文学研究集會會議録』第17回(国文学研究資料館、1994.10)
- ④ 「韓国における高橋新吉」(単著)  
 『国文』第82号(お茶の水女子大学国語国文学会、1995.1)
- ⑤ 「叙述の真偽からみた『地獄変』の世界」(単著)(韓国語)  
 『日語日文学研究』第28輯(韓国日語日文学会、1996.6)
- ⑥ 「中野重治と韓国プロレタリア文学運動—林和、李北満との関係を中心として—」  
 (単著)『日本研究』第12号(韓国外国語大学校日本研究所、1998.2)(韓国語)
- ⑦ 「日本統治期の韓国人作家と日本語」(単著)  
 『日本近代文学』第63集(日本近代文学会、2000.10)
- ⑧ 「『雨の降る品川駅』・中野重治・『五勺の酒』—民族・民族問題をめぐって—」  
 (単著)『淵叢』第10号(淵叢の会、2001.8)
- ⑨ 「中野重治、詩的精神の憤怒の行方—君らの叛逆する心は別れの—瞬に凍  
 る—をめぐって」(単著)『国文学』第47巻1号(學燈社、2002.1)
- ⑩ 「ソウルの異邦人、その周辺—李良枝『由熙』をめぐって—」(単著)  
 『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第7号(2004.3)
- ⑪ 「中野重治と日本の天皇制」(単著)『日本近代文学—研究と批評4』  
 (韓国日本近代文学会、2005.10)(韓国語)
- ⑫ 「朴景利『土地』に描かれた日本・日本人像」(単著)『新潟国際情報大学  
 情報文化学部紀要』第9号(2006.6)
- ⑬ 「予感する〈女〉たち—韓国語訳『ジョゼと虎と魚たち』をめぐって—」  
 (単著)『国文学解釈と鑑賞 別冊 田辺聖子』(至文堂、2006.7)

その他

- ① 玄月『蔭の棲みか』(文学トンネ、2000.11)(共訳)
- ② 玄月『悪い噂』(文学トンネ、2002.11)(共訳)
- ③ 堀江敏幸『熊の敷石』(文学トンネ、2005.3)(共訳)
- ④ 平野啓一郎『滴り落ちる時計たちの波紋』(文学トンネ、2008.2)(共訳)
- ⑤ 平野啓一郎『あなたが、いなかった、あなた』(文学トンネ、2008.9)(共訳)

所属学会 日本近代文学会、朝鮮学会、お茶の水女子大学国語国文学会、韓国日本近代  
 文学会



- 氏名 タカハシ マサキ 高橋 正樹 TAKAHASHI Masaki  
 性別 男  
 生年月日 1956年3月1日生  
 職名 教授(2005年4月)  
 連絡方法 E-mail: tmasaki@nuis.ac.jp  
 学歴 1981年 中央大学法学部政治学科卒業  
 1990年 中央大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程満期退学  
 学位 法学修士(中央大学、1985年3月)  
 職歴 タマサート大学(タイ) 客員研究員  
 中央大学法学部兼任講師  
 白鷗大学法学部非常勤講師  
 東京外国語大学外国語学部非常勤講師
- 研究分野 政治学の観点からのタイ国家研究と、日本とアジアの国際関係を研究しています。とくに現在の研究のテーマはグローバリゼーション時代のタイ国家の変容についてです。タイは歴史的にバンコクを中心に世界経済と密接な関係をもつことで国家形成を行って来ました。その結果、バンコクと周辺地域とは異なる政治経済構造を形成してきました。その二重構造は戦後の近代化時代にも是正されることなく、新たな二重構造を構築しました。それはタイ国家内のバンコクと地方との無関係的な二重構造から、国家統合の促進によって両者が不平等に関係付けられた二重構造といえます。
- さらに、90年代以降のグローバリゼーションによって、バンコクの資本や中間層、国家官僚は政府の政策をグローバリゼーションに適したものに変わっていききました。その結果、タイ国家の機能はグローバル資本とそれと利害を一致させるタイの資本の活動を円滑にする機能を一層促進させていき、資本、中間層、国家官僚のグローバル勢力とそれ以外の勢力との対立を激化させています。その過程でグローバル勢力は国外の諸勢力にその権力を依存する構造を強化して、タイの国家は国民に権力基盤をもたず国民に責任をもたない傾向を強めていくのではないかと考えられます。
- 主要業績 論文
- ① 「19世紀前半におけるバンコク王朝の政治秩序 — 交易港と権威交易体制 —」『法学新報』第96巻1・2号(中央大学法学会)、1989年11月
  - ② 「カンボジア紛争とタイ国共産党の崩壊 — 地域システムとタイ国家システム —」『中央大学社会科学研究所共同研究報告書』(中央大学社会科学研究所)、1997年7月
  - ③ 「アロンの国際関係論の認識論的検討 — その自然状態を中心に —」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第1号、1998年3月
  - ④ 「西欧におけるグローバリゼーションと国民国家 — 国家の脱国民国家化への視座を求めて —」『法学新報』110巻5・6号(中央大学法学会)、2003年8月
  - ⑤ 「グローバリゼーションとタイ国家論 — 分裂する社会、対立する言説 —」滝田賢治編著『グローバル化とアジアの現実』中央大学出版部、2005年3月
  - ⑥ 「戦争、諸国家システム、国家 — 歴史社会学の可能性と問題点 —」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第8号、2005年3月
  - ⑦ 「タイの地域主義の歴史的考案—東南アジアの多層的国際秩序研究—」『法学新報』第115巻9・10号(中央大学法学会)、2009年3月
  - ⑧ 「一時的に後退するタイの民主主義 — 2008年12月の『隠されたクーデター』」東洋大学アジア地域研究センター編『アジア社会の発展と文化変容』2010年3月
- 所属学会 日本国際政治学会・東南アジア学会・日本政治学会・日本平和学会・北東アジア学会・地域文化学会・日本タイ学会
- その他 タマサート大学(タイ) 客員研究員(1986～88年、1992～1994年、2001～2002年)  
 アメリカでの調査・研究(1995～1996年)

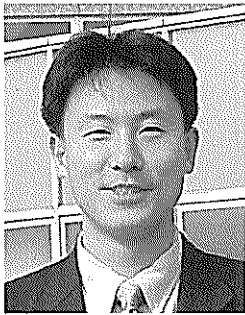




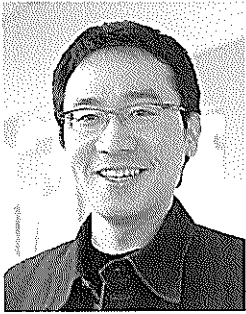
氏名 Gregory Hadley  
 性別 男  
 生年月日 1965年3月12日生  
 職名 教授 (2005年4月)  
 連絡方法 E-mail : hadley@nuis.ac.jp  
 学歴 1987年 Northwest Missouri State University,USA  
 コミュニケーション専攻・スペイン語副専攻卒業  
 1992年 Midwestern Baptist Theological Seminary,USA  
 神学専攻修士課程修了  
 1997年 University of Birmingham,UK  
 応用言語学専攻修士課程修了  
 学位 Master of Divinity, Master of Arts (TEFL/TESL)  
 職歴 1997-2000年 長岡工業高等専門学校外国人教師  
 研究分野 ① Personal Construct Repertory Grids(による社会的、教育的価値観の異文化  
 リサーチ。  
 ② 国際英語教育の社会学  
 ③ オーラル・ヒストリー研究と地域史  
 主要業績 著書  
 ① 『Field of Spears: The Last Mission of the Jordan Crew』 Sheffield,  
 UK:Paulownia Press. 2007.  
 ② Hadley, G. (Ed.). (2003). "Action Research in Action." Singapore: SEMEO  
 Regional English Language Centre.  
 論文  
 ① 「An Investigation of Techniques that Encourage and Measure Oral  
 Communications in Japanese EFL Classrooms」 (『長岡工業高等専門学校  
 研究紀要』 1998年)  
 ② 「Returning Full Circle: A Survey of EFL Syllabus Designs for the New  
 Millennium」 (『RELC Journal』 1998年)  
 ③ 「Innovative Curricula in Tertiary ELT: A Japanese Case Study」  
 『ELT Journal』 1999年)  
 ④ 「Constructions across a Cultural Gap」 (共著)  
 (『Action Research』, TESOL 2001年)  
 ⑤ 「A Forecast for the Early 21<sup>st</sup> Century」 (全国語学教育学会, 2001年)  
 ⑥ 「Sensing the Winds of Change: An Introduction to Data-Driven Learning」  
 (『RELC Journal』 2002年)  
 ⑦ "Money, Politics and Religion: A Survey of Anglo-American Influence in  
 TESOL." 3L Journal of Language Teaching, Linguistics & Literature 9, 11-33  
 (2005年)  
 ⑧ "International English and the Anglo-American Hegemony: Quandary in  
 the Asian Pacific Region." Explorations in Teacher Education 12 (2), 44-  
 50. (2004年)  
 ⑨ "Relating the Curriculum to Regional Concerns: A Japanese Case Study."  
 GEMA journal 3 (2), 78-99. (2003年)  
 ⑩ Hadley, G. (2006). "ELT and the New World Order: Nation Building or  
 Neocolonial Reconstruction?" Issues in Political Discourse Analysis 1 (1), 23-48.  
 ⑪ Hadley, G. & Oglethorpe, J. (2007). "MacKay's Betrayal: Solving the  
 Mystery of the 'Sado Island Prisoner-of-War Massacre'." Journal of Military  
 History 71 (2), 441-464.  
 ⑫ グレゴリー・ハドリー、石井信平 (訳) 「竹槍の村に墜ちたB-29 (上)」 (2008  
 年4月号) 「世界」 269-277.  
 ⑬ グレゴリー・ハドリー、石井信平 (訳) 「竹槍の村に墜ちたB-29 (下)」 (2008  
 年5月号) 「世界」 258-266.  
 所属学会 全国語学教育学会 (JALT)  
 International Association of Teachers of English as a Foreign Language (IATEFL)  
 大学英語教育学会 (JACET)



- アレクサンドル プラーソル  
 氏名 Alexander Prasol  
 性別 男  
 生年月日 1952年10月26日生  
 職名 教授(2000年4月)  
 連絡方法 E-mail: prasol@nuis.ac.jp  
 学歴 1975年 極東国立大学(ロシア) 日本語文学科卒業  
 1978年 モスクワ大学日本語学系修士課程修了  
 学位 文学修士(Master of Linguistics モスクワ大学、1979年)  
 歴史博士(Doctor of History 極東大学、2005年)  
 職歴 1978～1980年 極東大学東洋学部助手  
 1980～1985年 同学部専任講師  
 1985～1991年 同学部助教授  
 1991～1994年 新潟大学教養部助教授  
 1994～1999年 新潟大学人文学部助教授  
 研究分野 大学卒業後、日本語と日本文化の研究をすすめてきたが、来日すると、ロシア語・ロシア文化も研究することになった。現在は、両方とも行っている。ロシア史概説とロシア文化論を担当するので、ロシアの過去の文化と社会、ロシア人発想の起源、ロシア人論の説に興味を持っている。現代のロシア人として、激しい移り変わりを体験しつつある新しいロシア連邦からのニュースを分析している。ロシア人の目で見た日本、日本人の目で見たロシア、両国間の交流と諸問題などについて考えている。  
 主要業績 著書  
 ①『日本語会話』(共著) 極東大学出版部 1984年、172頁  
 ②『日本語会話における終助詞』(単著) 極東大学出版部 1989年、1999年出版、170頁  
 ③『日本教育の成立』(8～19世紀)(単著) ダリナウカ出版、2001、391頁  
 ④『明治時代の教育』(1868-1912)(単著) ダリナウカ出版、2002、358頁  
 ⑤『自治体外交』市岡政夫著(ロシア語単訳) ダリナウカ出版、2004、300頁  
 ⑥『日本：時代の相貌 — 現代社会の伝統とメンタリティー』(単著) ナタリス出版、2008、360頁  
 ⑦『日本：時代の相貌 — 現代社会の伝統とメンタリティー』(単著)(増丁版) ナタリス出版、2009、416頁  
 ⑧ Modern Japan: Origins of the Mind. Japanese Traditions and Approaches to Contemporary Life. (単著) World Scientific, 2010, 400p.  
 論文  
 ①「日本語条件形式の用法をめぐって」(単著) 1995年(新潟大学)  
 ②「現代ロシア語における俗語と隠語について」(単著) 1996年(新潟大学)  
 ③「古代日本の教育の成立と最初の教育機関」(単著) 1998年(ウラジオストク)  
 ④「Some Features Of the Sentence-Final Particles in Japanese」(単著) 1999年(新潟大学)  
 ⑤「鎌倉・室町時代の教育」(単著) 1999年(ウラジオストク)  
 ⑥「徳川時代の文化と家庭教育」(単著) 2001年(ウラジオストク)  
 ⑦「明治初期教育制度の変遷」(1868～1871年) 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第5号、2002年  
 ⑧「現代日本教育について」(単著) Yaponia: Put' Kisti i Mecha, 2002, N3 (モスクワ)  
 ⑨「日本教育の起源と展開」(博士論文の概要 ウラジオストク) 2005年  
 ⑩「ロシアと日本：民俗文化のアーキタイプを比較して」(単著) 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第10号、2007年  
 所属学会 日本教育史研究会  
 ヨーロッパ日本研究学会(European Association for Japanese Studies)



アンドウ ジュン  
**氏名** 安藤 潤 ANDO Jun  
**性別** 男  
**生年月日** 1968年3月25日生  
**職名** 准教授 (2003年4月)  
**連絡方法** E-mail : ando@nuis.ac.jp  
**学歴** 1992年3月 早稲田大学政治経済学部経済学科卒業  
 1994年3月 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了  
 2000年3月 早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得修了  
**学位** 学士 (経済学) (早稲田大学、1992年3月)  
 修士 (経済学) (早稲田大学、1994年3月)  
**職歴** 国土館大学政経学部・法学部非常勤講師 (2002年4月～2010年3月)  
 中央大学経済研究所特別研究員 (2002年10月～)  
**研究分野** ①研究テーマ:防衛支出がマクロ経済に与える影響に関する実証分析  
 キーワード:防衛支出、externality effect、政府支出の代替性・補完性  
 研究形態:個人研究  
 ②研究テーマ:アイデンティティと経済行動  
 キーワード:行動経済学、家計経済学、家事分担、ジェンダー・ディスプレイ  
 研究形態:個人研究  
**主要業績 著書**  
 ①『IT革命時代の経済と政府』(共著、2002年9月、文眞堂、共著者:長谷川啓之、谷口洋志)、担当:「第3部 グローバリズムとIT革命時代のマクロ経済政策」(163-220頁)  
 ②『経済政策の理論と現実』(共著、2009年2月、学文社、共著者:長谷川啓之、馬場正弘、辻忠博)、担当:「第1章 経済政策の基本問題」(7-25頁)、「第5章 格差問題と政府の役割」(87-111頁)、「第7章 グローバル経済における家計経済」(132-154頁)、「第8章 少子高齢化と政府の役割」(155-175頁)  
 ③『平成不況』(共著、2010年3月、文眞堂、共著者:松本保美、塚原康博、鏑田亨、永富隆司、得田雅章)、担当:「3 近年の消費者行動」(106-126頁)  
 ④『入門 現代経済学要論』(共著、2010年4月、白桃書房、共著者:青木孝子、塚原康博、鏑田亨)  
**論文**  
 ①「米国における家計の『過剰消費』に関する一考案—財政政策、消費者金融及びITバブルの影響を中心に」(単著:諏訪貞夫 [編著]『日本経済の進歩と将来』、2007年6月、成文堂、150-164頁)  
 ②「アイデンティティと経済行動—男性配偶者の家庭内・家庭外労働時間分担比率の実証分析—」(単著、2008年3月、『新潟国際情報大学情報文化学部紀要第11号』、新潟国際情報大学情報文化学部紀要編集委員会、1-13頁)  
 ③「既婚女性の家事労働時間削減と政府の役割:消費と時間配分に関する合理的選択理論から」(単著、2009年3月、『新潟国際情報大学情報文化学部紀要第12号』、新潟国際情報大学紀要編集委員会、(61-73頁)  
 ④「アイデンティティと夫婦間の家庭内労働分担行動」(単著、千田亮吉・塚原康博・山本昌弘 [編著]『行動経済学の理論と実証』、2010年1月、勁草書房、72-100頁)  
 ⑤「アイデンティティと夫婦の家庭内労働分担:夫のジェンダー・ディスプレイに関する仮想実験」(単著、2010年3月、『新潟国際情報大学情報文化学部紀要第13号』、新潟国際情報大学紀要編集委員会、31-48頁)  
**所属学会** 日本経済政策学会・情報通信学会・日仏経済学会



- クマガイ タク  
氏名 熊谷 卓 KUMAGAI Taku  
性別 男  
生年月日 1969年1月25日生  
職名 准教授 (2004年4月)  
連絡方法 E-mail: takuk@nuis.ac.jp  
学歴 1991年3月 私立甲南大学法学部法学科卒業  
2000年8月 広島大学大学院社会科学研究所後期博士課程法律学専攻単位取得退学  
学位 法学修士 (広島大学、1994年3月)  
職歴 1995年～1999年 私立広島文教女子大学文学部非常勤講師  
1997年～1999年 広島大学法学部助手  
1998年～1999年 島根県立国際短期大学国際文化学科非常勤講師  
2000年 私立福山大学経済学部非常勤講師  
2000年 国立呉工業高等専門学校非常勤講師
- 研究分野 国際法、国際刑事法。テロリズムや麻薬の不法な取引といった、国境を越える犯罪の増加という問題を素材として、現代国際法が、如何にして諸国の多様な利益 (主権) を調整しつつ、国際社会の共通利益 (共通の保護法益) を擁護しているのかということを中心に現在の研究のテーマとしている。
- 主要業績 著書  
①『ファンダメンタル法学講座 国際法』(共著) (不磨書房、2002年)
- 論文  
①「国家管轄権の域外適用—アメリカ合衆国反トラスト法を中心に—」1995年3月 広島法学 (広島大学法学会) 第18巻第4号 181頁—208頁。  
②「国際テロリズムの法的規制」1996年3月 広島法学 (広島大学法学会) 第19巻第4号 257頁—300頁。  
③「欧州連合 (EU) と国際テロリズム」1997年2月 広島法学 (広島大学法学会) 第20巻第3号 203頁—235頁。  
④「犯罪人引渡と国際テロリズム—フランス共和国の立法および判例から—」1998年2月 広島法学 (広島大学法学会) 第21巻第3号 95頁—133頁。  
⑤「フランス共和国におけるテロリズムに対する国内法的規制 (一) (二・完)」1999年2月 1999年3月 広島法学 (広島大学法学会) 第22巻第3号 37頁—60頁 第22巻第4号 117頁—138頁。  
⑥「国家テロリズムと国際法—ロッカビー事件を手がかりとして—」2002年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第5号 115頁—154頁。  
⑦「誰がテロリストを裁くのか?—合衆国軍事委員会と国際人権法—」2003年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第6号 87頁—101頁。  
⑧「判例紹介 テロリストと人身保護請求の可否—グアンタナモの被拘束者に関する5つの裁判例から—」2004年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第7号 119頁—159頁。  
⑨「判例紹介 対テロ戦争と人権—グアンタナモの被拘束者をめぐるアメリカ合衆国連邦最高裁の判断—」2005年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第8号 119頁—133頁。  
⑩「対テロ戦争と国際人権法—グアンタナモの被拘束者に対する市民的および政治的権利に関する国際規約 (自由権規約) の適用可能性—」2005年12月 広島法学第29巻第2号 81頁—116頁。  
⑪「テロリズムを契機とする国家の国際法上の責任に関する序論的考察」2008年3月新潟国際情報大学情報文化学部紀要第11号 15頁—29頁。  
⑫「テロリズムと人権—テロ被疑者の処遇を素材として—」2009年8月 国際法外交雑誌第108巻第2号 91頁—119頁。
- 所属学会 世界法学会  
国際法学会  
米国国際法学会



コバヤシ モトヒロ

氏名 小林 元裕 KOBAYASHI Motohiro

性別 男

生年月日 1963年生

職名 准教授 (2001年9月)

連絡方法 E-mail : Kobayasi@nuis.ac.jp

学歴 1986年 横浜市立大学文理学部文科卒業  
 1989年 立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程前期課程修了  
 1990～1992年 南開大学留学  
 1996年 立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程後期課程退学

学位 博士 (文学) (立教大学、2010年3月)

職歴 1996～1998年 立教大学非常勤講師  
 1998～2001年 在瀋陽日本国総領事館専門調査員  
 2002～2003年 信州大学非常勤講師  
 2003～2004年 放送大学 (新潟学習センター)・新潟大学非常勤講師  
 2006～2007年 東北学院大学非常勤講師

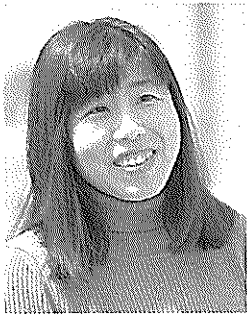
研究分野 日中関係論・日中近現代史

主要業績 著書  
 ①『東京裁判資料・田中隆吉尋問調書』(共編、大月書店、1994年)  
 ②『天津史—再生する都市のトポロジー』(共著、東方書店、1999年)

論文  
 ①「天津事件再考—天津総領事館・支那駐屯軍・日本人居留民—」(『日本植民地研究』第8号、1996年)  
 ②「阿片をめぐる日本と汪兆銘政権の『相剋』」(『年報日本現代史』第3号、1997年)  
 ③「Drug Operations by Resident Japanese in Tianjin」(『Opium Regimes—China, Britain, and Japan, 1839—1952』, Berkeley: University of California Press, 2000)  
 ④「移行期における民営経済—中国・瀋陽にみる歴史的背景と現在」(共著、『東亜』2001年2月号)  
 ⑤「国有企業主体地域における私営企業の発展と政治経済体制—遼寧省の事例」(『中国の私営企業等の実態とその国内政治への影響評価』霞山会、2002年)  
 ⑥「歴史的“改革”與日本外交—以昭和初期為例」(『全球化與東亞政治、行政改革』天津人民出版社、2003年)  
 ⑦「遼寧省の市場経済発展と企業改革・中小企業—瀋陽の事例から—」(共著、『東北アジアビジネス提携の展望』文眞堂、2004年)  
 ⑧「蒙疆の日本人居留民」(『日本の蒙疆占領1937—1945』研文出版、2007年)

その他  
 ①「書評—山田豪—『満洲国の阿片専売—わが「滿蒙特殊權益」の研究』」(『日本植民地研究』第17号、2005年)  
 ②「書評『日中戦争と上海、そして私—古厩忠夫中国近現代史論集』」(『日本植民地研究』第18号、2006年)  
 ③「日中関係再考」(『東アジア〈共生〉の条件』世織書房、2006年)  
 ④「里見甫と宏済善堂—『華中宏済善堂内容概記』他について—」(『年報日本現代史』第13号、2008年)  
 ⑤ 翻訳「植民地期から戦後における台湾の社会運動史研究について(陳慈玉)」(『年報日本現代史』第13号、2008年)

所属学会 日本植民地研究会  
 近現代東北アジア地域史研究会  
 日本現代史研究会  
 中国現代史研究会  
 歴史学研究会



- 氏名 ヤグチ ユウコ 矢口 裕子 YAGUCHI Yuko  
 性別 女  
 生年月日 1961年2月22日生  
 職名 准教授 (2001年4月)  
 連絡方法 E-mail : yaguti@nuis.ac.jp  
 学歴 1985年3月 法政大学文学部英文学科卒業  
 1991年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了  
 1994年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士課程満期退学  
 学位 文学修士 (法政大学、1991年3月)  
 職歴 東京医科歯科大学非常勤講師 (1994.4 ~ 2001.3)  
 受賞歴 1996年7月14日第3回女性学研究国際奨励賞  
 研究分野 アメリカ文学、ジェンダー・セクシュアリティ研究 (個人研究)  
 主要業績 著書  
 『東アジア〈共生〉の条件』世織書房 (2006.3) 共著  
 論文  
 ① "Anais Nin : Another Woman Not in the Novels (I)" 『法政大学大学院紀要』第28号 (67-84頁) (1992.3)  
 ② "Anais Nin : Another Woman Not in the Novels (II)" 『法政大学大学院紀要』第30号 (55-74頁) (1993.3)  
 ③ 「Sam Shepard, *Fool for Love* — カウボーイが女を愛する時」法政大学英文学会『英文学誌』第36号 (65-85頁) (1994.2)  
 ④ 「Sam Shepard, *A Lie of the Mind* — 新しいイヴの歌」日本アメリカ文学会『アメリカ文学研究』第32号 (57-74頁) (1996.3)  
 ⑤ "The Text That Is the Writer—Anais Nin's Diary" *Anais—An International Journal*. Vol.16. Anais Nin Foundation (pp.49-60) (1998.3)  
 ⑥ "The Imaginary Father" *Anais—An International Journal*. Vol.18. Anais Nin Foundation (pp.46-60) (2000.3)  
 ⑦ 「『パリ、テキサス』あるいは砂漠のロマンス」全国アメリカ演劇研究者会議『アメリカ演劇』第12号 (65-85頁) (2000.6)  
 ⑧ 「性/愛の家のスパイ—Henry&Juneから読み直す Anais Nin」日本英文学会『英文学研究』第80号 (13-25頁) (2003.10)  
 ⑨ "Twittering Machine of Paradise—Glimpses of Two of Anais Nin's Japanese Daughters" *A Cafe in Space:Anais Nin Literary Journal*. Vol.1.Sky Blue Press (pp.106-17) (2003.11)  
 ⑩ 「アナイス・ニンの娘たち—冥王まさ子と矢川澄子のグリンプス」『新潟ジェンダー研究』第5号 (pp.5-12) (2004.2)  
 ⑪ 「ロマンティック・クィア—草野マサムネ ジェンダー試論」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第8号 (pp.39-50) (2005.3)  
 ⑫ "A Spy in the House of Sexuality:Rereading Anais Nin through *Henry & June*" *A cafe in Space:Anais Nin Literary Journal*. Vol.4. Sky Blue Press (pp.22-34) (2007.3)  
 ⑬ 「アナイス・ニンの「ジューナ」—『人工の冬』パリ版から」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第10号 (pp.57-60) (2007.5)  
 ⑭ 「アナイス・ニン『人工の冬』パリ版という旅」『水声通信』第28号 (pp.23-35) (2009.5)  
 ⑮ 「想像の父を求めて—『インセスト』論への前奏曲」『水声通信』第31号 (pp.135-144) (2009.9)  
 所属学会 日本アメリカ文学会  
 日本英文学会  
 日本女性学会  
 日本平和学会  
 日本ヘンリー・ミラー協会



ヨシザワ フミトシ  
**氏名** 吉澤 文寿 YOSHIZAWA Fumitoshi  
**性別** 男  
**生年月日** 1969年1月7日生  
**職名** 准教授 (2006年4月)  
**連絡方法** E-mail : yosizawa@nuis.ac.jp  
**学歴** 1992年3月 東京学芸大学教育学部中等教育教員養成課程卒業  
 1995年3月 東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了  
 2004年7月 一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了  
**学位** 社会学博士 (一橋大学、2004年7月)  
**職歴** 2000年3月～2002年2月 韓国湖南大学校外国語学部日本語科専任講師  
 2002年10月～2006年3月 東京学芸大学・青山学院大学・関東学院大学・大東文化大学・明星大学非常勤講師  
**研究分野** 朝鮮現代史、日朝関係史。主に外交における植民地責任問題の展開について考察している。また、在日朝鮮人の歴史や、現在の分断体制下の朝鮮における植民地主義についても研究課題としていきたいと考えている。今後、他国の事例と比較しながら、日本と朝鮮における植民地主義及び植民地責任をめぐる諸問題について考察を深めていきたい。  
**主要業績** 著書  
 ①『戦後日韓関係 国交正常化交渉をめぐって』クレイン、2005年 (単著)  
 ② 同時代史学会編『朝鮮半島と日本の同時代史』日本経済評論社、2005年 (共著)  
 ③ 板垣竜太・田中宏編『日韓 新たな始まりのための20章』岩波書店、2007年 (共著)  
 ④ 永原陽子編『植民地責任論—脱植民地化の比較史』青木書店、2009年 (共著)  
 論文・その他  
 ①「決壊 史上初の日韓会談関連外交文書の公開から始まる『真実の濁流』によせて」(『現代思想』33-6、2005年6月)  
 ②「公開された日韓会談関連外交文書について」(『戦争責任研究』49、2005年9月)  
 ③「日本と朝鮮分断国家との「国交正常化交渉史」歴史認識の問題を中心として」(『情況』第3期56号、2005年10月)  
 ④「韓国政府による日韓会談文書全面公開と日本の課題」(『インパクション』2005年10月)  
 ⑤「研究動向 日韓会談研究の現状と課題」(『歴史学研究』813、2006年4月)  
 ⑥「植民地支配の「清算」とは何か—朝鮮を事例として」(『歴史評論』677、2006年9月)  
 ⑦「日本における日韓会談関連外交文書の公開状況について—財産請求権問題を中心に」(『日本空間』〈韓国国民大学校日本学研究所〉4、2008年11月)  
 ⑧「日韓国交正常化と残された課題」(『戦争責任研究』66、2009年12月)  
**所属学会** 歴史学研究会  
 在日朝鮮人運動史研究会  
 朝鮮史研究会  
 同時代史学会  
 韓日民族問題学会 (韓国)  
**その他** 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員



氏名 マツオ ミズホ 松尾 瑞穂 MATSUO Mizuho  
 性別 女  
 生年月日 1976年6月20日生  
 職名 講師 (2010年4月)  
 連絡方法 E-mail: matsuom@nuis.ac.jp  
 学歴 1999年南山大学文学部人類学科卒業  
 2002年名古屋大学大学院国際開発研究科博士前期課程修了  
 2007年総合研究大学院大学文化科学研究科博士後期課程単位取得退学  
 学位 博士 (文学) (総合研究大学院大学、2008年)  
 職歴 2006年～2007年 日本学術振興会特別研究員 (DC2)  
 2007年～2010年 日本学術振興会特別研究員 (PD)  
 2008年～2010年 同朋大学非常勤講師  
 研究分野 文化人類学、医療人類学、ジェンダー研究、身体論、南アジア地域研究  
 主要業績 著書  
 『医療人類学のレッスン』 (共著) (学陽書房、2007年)  
 論文  
 ① 「出産の近代化政策における「伝統的」産婆—インドのTBATレーニングをめぐる価値と実践—」 (『民族学研究』第68巻1号、2003年)  
 ② 「帝国医療とネイティブ女性—バースコントロールにおける身体の「管理」と女性の「救済」—」 (『地域研究論集』第7巻2号、2006年)  
 ③ 「「一人か二人、それで十分!」—マハーラーシュトラ農村社会における家族計画の実践—」 (『マハーラーシュトラ』第11号、2006年)  
 ④ 「インドにおける生殖医療技術と不妊の医療化—マハーラーシュトラ・ブネーの医師の言説から」 (『南アジア研究』第19号、2007年)  
 ⑤ 「生命という不確実性とリスク: インドにおける代理懐胎をめぐる」 (『Kyoto Working Paper』 G-COE series29、2009年)  
 ⑥ 「「回復」を希求する—インドにおける不妊と「流産」の経験」 (『文化人類学』第74巻3号、2009年)  
 ⑦ 「争点化するセクシュアリティ—植民地期インドにおけるR.D.カルヴェーの思想と活動を中心に」 (『南アジア研究』第21号、2010年)  
 ⑧ 「ジェンダー化されたサファリング—不妊の病因論と経験の組織化」 (『コンタクト・ゾーン』第3号、2010年)。  
 所属学会 日本文化人類学会、日本南アジア学会、宗教と社会学会  
 その他 プネー大学 (インド) 社会学部外来研究員 (2003～2005年)  
 国立民族学博物館共同研究員 (2007年～)  
 人間文化研究機構地域研究推進事業研究分担者 (2010年～)  
 ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン (英国) 客員研究員 (2010年)





ポール ナダスディ

氏 名 Paul Nadasdy  
 性 別 男  
 生 年 月 日 1972年9月18日生  
 職 名 CEPインストラクター (2008年4月)  
 連絡方法 E-mail : nadasdy@nuis.ac.jp  
 学 歴 1994 North Herts College, Stevenage. Diploma : Film Studies.  
 1998 Manchester Metropolitan University. BA (Hons) Degree in Interactive and  
 Broadcast Media.  
 2008 Birmingham University. Masters in TEFL/TESL.  
 学 位 修士  
 職 歴 NOVA, Tokyo. Instructor. (2002-2004)  
 Interac, Chiba. Assistant Language Teacher (ALT) . (2004-2006)  
 Shumei Eiko high school, Saitama. English Teacher. (2007-2008)  
 Niigata University. Instructor of English. (2008 ~)  
 研究分野 Sociocultural Theory  
 Motivation and Learner Autonomy  
 Self-Efficacy in Second Language Learning  
 Group Dynamics  
 所属学会 MATSUDA - (Materials Development Association) Leeds, UK.  
 JALT (The Japan Association for Language Teaching)  
 JALT MWSIG (Material Writers Special Interest Group)



氏名 Michael Ruddick  
 性別 男  
 生年月日 1966年5月25日生  
 職名 CEP インストラクター (2008年9月)  
 連絡方法 E-mail : ruddick@nuis.ac.jp  
 学歴 Blakelaw School, Newcastle upon Tyne, England, 1977-1982. O levels  
 Newcastle College, England, 1992 – 1993 Higher Education Foundation Course  
 in English Literature, English Language and Historical Studies  
 University of Sunderland, England, 1993-1996 BA (Hons) Degree (2:1) in English  
 Studies  
 Newcastle College, England, February -May 1997 Certificate in English  
 Language Teaching to Adults  
 University of Birmingham, England. October 2005 to September 2008.  
 Graduated December 2008.  
 MA in TEFL  
 職歴 Shumei Eiko high school, Saitama. English Teacher (2006 – 2008) ,  
 Niigata Prefecture Board of Education, Niigata. English Teacher (2002 – 2005)  
 NOVA Intercultural Institute, Nagaoka, Japan, November (1999 – 2001)  
 研究分野 Sociocultural Theory  
 Critical Discourse Analysis  
 Research Methods  
 所属学会 Niigata JALT – Program Chair

# 情報 システム学科

---

上西園 武良

岸野 清孝

桑原 悟

近藤 進

笹川 壽昭

白井 健二

高木 義和

竹並 輝之

槻木 公一

西山 茂

藤瀬 武彦

山口 直人

石井 忠夫

石川 洋

大野 富彦

小野 陽子

小宮山 智志

佐々木 桐子

二瀬 由理

吉田 博

河原 和好

中田 豊久

山下 功

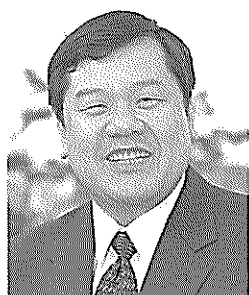




氏名 上西園 武良 Kaminishizono Takeyoshi  
 性別 男  
 生年月日 1951年5月17日生  
 職名 教授 (2010年4月)  
 連絡方法 E-mail : tkami@nuis.ac.jp  
 学歴 1974年3月 神戸大学理学部物理学科卒業  
 1976年3月 大阪大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程修了  
 学位 博士 (学術、大阪市立大学大学院、2009年12月)  
 職歴 1977年4月 アイシン精機株式会社入社、住生活機器 (ベッド、枕、ミシン、  
 温水洗浄便座など) の企画・開発に従事  
 2004年1月 同社 主席技師  
 研究分野 人間工学、特に人間中心設計 (HCD) を目指した機器の設計論。具体的には、  
 ヒトの感覚特性・認知特性に適合した機器の設計手法の研究、良質な睡眠の  
 ための寝具の研究。  
 主要業績 論文  
 ① 上西園武良, 細井広康, 川原理恵, 岡田明: 「家庭用ミシンの操作性に関する研究」, 人間工学, pp.178-182, Vol.45, No.3, 2009年  
 ② 上西園武良, 岡田明: 「生活機器における感覚機能に対する設計解についての研究」, 人間中心設計, pp.21-28, Vol.5, No.1, 2009年  
 ③ 上西園武良, 葉袋賢一, 岡田明: 「温水洗浄便座における洗浄強さ感に関する研究 洗浄強さ感を設計値に変換する方法について」, デザイン学研究, pp.83-88, Vol.55, No.2, 2008年  
 ④ 上西園武良, 岡田明, 池浦良淳: 「枕の開発における効率的な人間中心設計の方法 寝返り性能を設計値に変換する方法について」, デザイン学研究, pp.29-34, Vol.54, No.5, 2008年  
 ⑤ 村田康弘, 池浦良淳, 上西園武良, 内藤公孝, 和阪学弘, 安達優, 水谷一樹, 澤井秀樹: 「枕上における頭部の寝返り抵抗トルクの解析」, 機械学会論文集C編, pp.1539-1545, Vol.74, No.742, 2008年  
 ⑥ Kaminishizono T., OKADA A.: 「Research concerning human-centred design; applicability to a household sewing machine」, Related papers; Posters, 16th World Congress on Ergonomics, 2006年  
 ⑦ 上西園武良, 森井達弥, 木村禎祐, 折居直純: 「快適睡眠寝室の開発 光環境による目覚めの最適化」, 人間生活工学, pp.25-29, Vol.7, No.3, 2006年  
 ⑧ 山田浩, 上西園武良, 角谷明子: 「寝返り性向上マットレスの開発」, 人間生活工学, pp.30-35, Vol.5, No.4, 2004年  
 所属学会 人間工学会、デザイン学会、人間中心設計推進機構  
 その他 JES (日本人間工学会) 認定人間工学専門家



氏名 キシノ キヨタカ 岸野 清孝 KISHINO Kiyotaka  
 性別 男  
 生年月日 1949年4月20日生  
 職名 教授 (2004年4月)・情報システム学科長  
 連絡方法 E-mail : Kishino@nuis.ac.jp  
 学歴 1972年 京都工芸繊維大学工芸学部生産機械工学科卒業  
 1974年 京都工芸繊維大学大学院工芸学研究科生産機械工学専攻修士課程終了  
 学位 博士 (工学、京都大学、2004年3月)  
 職歴 1974年 株式会社日立製作所システム技術本部入社  
 1998年 株式会社日立製作所システム事業部ロジスティクスシステム部長  
 2002年 株式会社日立製作所システム事業部産業・流通システム本部長  
 研究分野 製造・流通分野においてビジネスプロセスを分析し、ITの活用により業務改革を行うシステムの計画に関する研究  
 ① 製造・流通におけるSCM (Supply Chain Management) の研究  
 ② 製造・流通におけるロジスティクスのIT化の研究  
 ③ トラック輸送の高度交通システム・ITS (Intelligent Transportation System) の活用によるIT化の研究  
 主要業績 著書  
 ① 「CIM生販統合の実現」日本経済新聞社 (共著) 1990年  
 ② 「人工生命」同文書院 (共著) 2002年  
 ③ 「流通と物流」静岡学術出版 2007年  
 ④ 「卒業論文の作り方 複合領域分野における経営学研究の進め方」静岡学術出版 (共著) 2008年  
 論文  
 ① 「On Stochastic Controllability for Nonlinear System」IEEE AUTOMATIC CONTROL,1974  
 ② 「FA and Physical Distribution at a Copy Machine Part Processing Works」International Physical Distribution Conference Tokyo,1985  
 ③ 「Integrated and Distributed Production Control System for Daily Parts Manufacturing」Hitachi Reveiw,1986  
 ④ 「FMSの動向と適用技術」無人化技術 1987年  
 ⑤ 「VANの利用による資材業務の合理化・ペーパーレス化」日立評論 1989年  
 ⑥ 「生産・販売統合CIMシステム」日立評論 1993年  
 ⑦ 「生販統合化における情報処理の技術・製品・活用法」ファクトリ・オートメーション 1994年  
 ⑧ 「需要変動に対応した生産計画」電気学会産業応用部門全国大会 1995年  
 ⑨ 「21世紀ビジネス革新を支えるCALISの展開」日立評論 1997年  
 ⑩ 「Development of Artificial Life Based Optimization System」Eighth International conference on parallel and Distribution Systems Korea IEEE COMPUTER SOCIETY,2001  
 ⑪ 「ブローカーを利用した交通情報予測方式の検討」情報処理学会論文誌 2002年  
 ⑫ 「Arrival Time Prediction Based on Floating Car Data in the Fleet Management ASP」9th ITS World Congress,Chicago,2002  
 ⑬ 「トラック運行管理ASPIによる業務向け交通情報サービスの開発」計測自動制御学会産業論文集 2003年  
 ⑭ 「サプライチェーンにおける総コスト最小となる輸配送計画の開発」新潟国際情報大学情報文化部紀要 2007年  
 所属学会 情報システム制御学会、計測自動制御学会、交通工学研究会、情報システム学会  
 その他 技術士 (経営工学部門、総合技術監理部門)



クワハラ サトル  
 氏名 桑原 悟 KUWAHARA Satoru  
 性別 男  
 生年月日 1956年7月15日生  
 職名 教授 (2008年4月)  
 連絡方法 E-mail : kuwahara@nuis.ac.jp  
 学歴 1977年3月 東京都立工業高等専門学校機械工学科卒業  
 1981年3月 東京農工大学工学部数理情報工学科卒業  
 1983年3月 東京農工大学大学院工学研究科修了  
 2008年3月 東京農工大学大学院博士後期課程単位取得満期退学  
 学位 工学修士 (東京農工大学、1983年3月)  
 職歴 1983年4月～2000年6月：三菱電機株式会社 情報システム技術センタ 専任  
 2000年7月～2001年3月：KPMGビジネスアシュアランス株式会社 シニアマネージャ  
 研究分野 情報セキュリティ。情報化社会の充実には、テクノロジーの発展とそれを実  
 社会で利用するフレームワークの構築が重要である。特にインターネットの  
 ようなオープンネットワークにおいて、個人や組織の情報の完全性、可用性、  
 機密性を確保するためのテクノロジーと利用のためのフレームワークについ  
 て研究を行っている。  
 主要業績 論文  
 ① 状態をもった内部表現でプログラムを保持するプログラミング教育環境の  
 有効性の検討 共著 2007.9 電子情報通信学会 信学技報  
 ② 初心者プログラミング環境に関する一考察 単著 FIT2007  
 ③ e-japan / u-japanにおける一般利用者のための情報セキュリティ認知の社  
 会環境に関する一考察 単著 2005.11 情報処理学会IS研究報告 情報  
 処理学会  
 ④ ビジネスアプリケーションのための新しいアクセス管理の視点 単著  
 2005.3 新潟国際情報大学紀要第8号 新潟国際情報大学  
 ⑤ 「大学の役割とIT化に関する一考察」単著 2003.9 情報処理学会 IS研究報  
 告 情報処理学会  
 ⑥ 「地方私立大学におけるIT利用に関する一考察」単著 2003.3 新潟国際情報  
 大学紀要第6号 新潟国際情報大学  
 ⑦ 「Mobile phone as secure terminal for e-business」単著 2002.8 Japan-US  
 Joint Seminar on e-business and i.business Satoru KUWAHARA  
 ⑧ 「EC・セキュリティソリューション」2000.4 三菱電機技報Vol.74 No.4 三菱電  
 機株式会社 佐々木、桑原 他  
 ⑨ 「社内認証局を設置し、グループ企業にデジタル認証書を発行」共著  
 2000.1 (財) 関西情報センタ機関紙 (財) 関西情報センタ 桑原、中村  
 ⑩ 『三菱電機におけるインターネットを利用した企業間連携システムのセキュリ  
 ティの実際』日本テクノセンター セミナー講演 1999年  
 ⑪ 『JapanNet 認証サービスを利用した社内情報システム』共著 1998.5 三菱  
 電機技報Vol.72 No.5 三菱電機株式会社 桑原、遠藤  
 所属学会 情報処理学会  
 情報システム学会  
 日本リスク研究学会  
 その他 ・情報処理技術者試験 (経済産業大臣所管) 試験委員  
 ・Information Systems Audit and Control Association会員  
 ・CISA (Certified Information Systems Auditor)  
 ・CISM (Certified Information Security Manager)  
 ・東京農工大学 非常勤講師 (2002～)  
 ・Visiting Professor, University of Alberta (2007、2008)



氏名 近藤 進 KONDO Susumu  
 性別 男  
 生年月日 1949年3月5日生  
 職名 教授 (2001年9月)  
 連絡方法 E-mail : kondo@nuis.ac.jp  
 学歴 1972年 新潟大学工学部電子工学科卒業  
 学位 博士 (工学、京都大学、1994年5月)  
 職歴 1972年～2001年 日本電信電話株式会社 (元日本電信電話公社) 研究所  
 研究分野 光ファイバー伝送用各種デバイス (レーザ、光変調器、光スイッチ、受光素子)  
 および結晶成長 (バルク、液相エピタキシャル成長、気相エピタキシャル成長)  
 信越地域の情報通信

主要業績

論文

- ① "Liquid phase-epitaxial growth of single-crystal LiNbO<sub>3</sub> thin film", Appl. Phys.Lett.26, p489 (1975)
- ② "LPE growth of Li (Nb,Ta) O<sub>3</sub> solid-solution thin film waveguide on LiTaO<sub>3</sub> substrate", J.Crystal Growth 46, p314 (1979)
- ③ "Prevention of circumferential melt back in LPE growth of InP/InGaAsP/InGaAs/InP layers for APD", J.Crystal Growth 61, p8 (1983)
- ④ "660nm InGaP light emitting diodes on Si substrate", Appl.Phys.Lett.53, p273 (1989)
- ⑤ "MOVPE growth of strained InGaAs/InAlAs MQWs for a polarization insensitive electro-absorption modulator", J.Electron.Materials 25, p385 (1996)
- ⑥ "Ruthenium doped Semi-insulating InP Buried InGaAlAs/InAlAs Multi-Quantum-Well Modulators", Jpn.J.Appl.Phys.41, p1171 (2002)

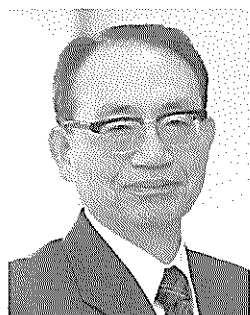
特許

"Semiconductor optical device and fabrication method"  
 European Patent,No.01251610 Jan.28 (2006) 独、英、仏、伊  
 No.01286439 Apr.12 (2006) 独、英、仏、伊  
 United State Patent,No.07060518 Jan.13 (2006) 米

所属学会 電子情報通信学会

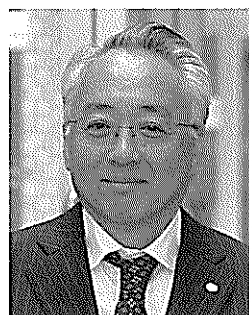
応用物理学会

その他 信越情報通信懇談会：新世代情報通信網委員会委員長



氏名 ササガワ ヒサアキ 笹川 壽昭 SASAGAWA Hisaaki  
 性別 男  
 生年月日 1941年9月7日生  
 職名 特任教授 (2007年4月)  
 連絡方法 E-mail: sasagawa@nuis.ac.jp  
 学歴 1964年 新潟大学人文学部人文科学科卒業  
 1967年 東京都立大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了  
 学位 文学修士 (東京都立大学、1967年3月)  
 職歴 1967年 獨協大学外国語学部専任講師  
 1968年 新潟大学教養部助手  
 1969年 新潟大学教養部専任講師  
 1975年 新潟大学教養部助教授  
 1987年 新潟大学教養部教授  
 1994年 新潟大学経済学部教授  
 研究分野 中世英語英文学、英語史、英語教育  
 主要業績 著書 (共編・共著)  
 ① 研究社新英和大辞典 (第5版) (研究社、1980年)  
 ② ロイヤル英和辞典 (旺文社、1990年)  
 ③ 英文 D. キャドベリィー著『環境ホルモン汚染問題の解明に挑む科学者たち』 (英宝社、1999年)  
 ④ 原文対訳「カンタベリー物語・総序歌」 (松柏社、2000年)  
 ⑤ 徹底解明 欽定英訳聖書初版 マタイ福音書 (研究社、2002年)  
 論文 (共著・単著)  
 ① 「チョーサーの散文における語順—S-V-O型について—」 新潟大学教養部研究紀要、第1集 (1969.3)  
 ② 「Some Observations on the Use of *Gan* in Chaucer's Poetry」 新潟大学教養部研究紀要、第5集 (1975.3)  
 ③ 「チョーサーのKnight's Taleにおける史的現在及び史的完了」 新潟大学教養部研究紀要、第12集 (1981.12)  
 ④ 「チョーサーにおける文彩的否定」 新潟大学教養部研究紀要、第15集 (1984.12)  
 ⑤ 「*The Romaunt of the Rose* における翻訳の技巧と文体的特徴」 新潟大学教養部研究紀要、第18集 (1987.12)  
 ⑥ 「On the Use of *That* in Chaucer's *Tale of Melibee*」 新潟大学教養部研究紀要、第25集 (1993.12)  
 ⑦ 「The Authorized Version of the Bible (1611) 『マタイ福音書』の英語」 新潟大学言語文化研究、第七号 (2001.12)  
 ⑧ 「キヤクストーン版カンタベリー物語 第2版 (Pepys' copy) の総序歌の転写および校合」 新潟大学言語文化研究、第十一号 (2006.3)  
 ⑨ 「ロバート・ヘンリソン『クレセイドの遺言』 *THE TESTAMENT OF CRESSEID*」 新潟大学言語文化研究、第十四号 (2009.6)  
 所属学会 日本英文学会  
 日本中世英語英文学会  
 新潟大学英文学会

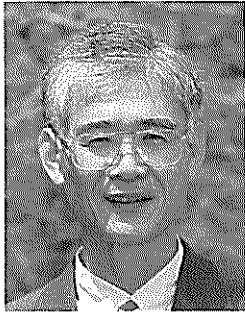




氏名 白井 健二 Shirai Kenji  
 性別 男  
 生年月日 1949年8月31日生  
 職名 教授 (2009年4月)  
 連絡方法 E-mail : shirai@nuis.ac.jp  
 学歴 1973年3月 立命館大学工学部電気工学科卒  
 1975年3月 立命館大学大学院理工学研究科電気工学専攻修士課程終了  
 学位 博士 (工学、立命館大学、2000年9月)  
 職歴 1975年4月 立石技術サービス株式会社 (現オムロンフィールドエンジニアリング株) 入社, 阪神高速道路公団の交通管制システムに従事。  
 1980年9月 株式会社CSK入社, 東京大学地震観測システムの開発に従事。  
 1982年4月 株式会社エリック入社, 1982年, システム開発部長, デジタル同期端局制御システムの開発に従事, NTT電話局業務システムに従事, 1991年6月, 取締役就任。  
 1992年9月 株式会社情報工房設立, 代表取締役社長に就任。ネットワークインフラ系ソフトウェアの販売・保守・カスタマイズ事業を展開。  
 2008年3月 協和テクノロジーズ株式会社に入社, 支配人, マーケット開発部配属。

研究分野 数理ファイナンスを応用した情報システム解析  
 主要業績 論文  
 ① 白井・天野・井上: 「ファイナンス論的評価による待ち行列系最適制御 — 収益レートに対する最適性の条件 —」 電気学会論文誌, Vol.120-C, pp.554-560, 2000年4月  
 ② 白井・天野・井上: 「トランザクション消滅のある待ち行列系の最適配分法 — ファイナンス論的アプローチ —」 電気学会論文誌, Vol.120-C, pp.453-463, 2000年4月  
 ③ 白井・天野・井上: 「有限個のトランザクション消滅を考慮したシステムの定常解析—トランザクション消滅過程の定常系内処理時間について」 電気学会論文誌, Vol.120-C, pp1458-1466, 2000年10月  
 ④ 白井・天野・井上: 「有限個のトランザクション消滅を考慮したシステムの定常解析—トランザクション消滅過程の定常系内処理時間について」 電気学会論文誌, Vol.120-C, pp1458-1466, 2000年10月  
 ⑤ 白井・天野・井上: 「トランザクション消滅のある待ち行列系に対する流通評価 — 流通収益最大問題における最適性の条件 —」 電気学会論文誌, Vol.121-C, No.2, pp401-409, 2001年2月

所属学会 電気学会, 日本リアルオプション学会, 日本金融・証券計量・工学学会  
 その他 電気学会 システム・制御・情報部門の論文委員会委員 (2003年8月~)



氏名 タカギ ヨシカズ 高木 義和 TAKAGI Yoshikazu  
 性別 男  
 生年月日 1949年10月20日生  
 職名 教授（1996年4月）  
 連絡方法 E-mail : takagi@nuis.ac.jp  
 学歴 1973年 京都大学農学部食品工学科卒業  
 学位 農学博士（京都大学、1983年3月）  
 職歴 1973年～1996年 日本たばこ産業株式会社（入社時は日本専売公社）  
 葉たばこ香嗅味成分の微量化学分析・構造決定・合成に関する研究、研究管理、  
 新規事業のための調査研究、特許の情報管理および出願、喫煙と健康に関する  
 科学情報の管理業務に従事。  
 研究分野 情報をめぐるさまざまな考え方の中で、情報を人・物・金につづく第4の資源とと  
 らえ、実体としての組織や社会における、有効な情報発信、情報受信、情報管理、  
 情報解析等、情報の価値に関する研究を行っている。  
 主要業績 論文  
 ①「日本と北米における情報サービス産業の構造比較」単著、新潟国際情報  
 大学情報文化学部紀要、Vol.10、119-130、2007.5  
 ②「日本と北米における情報サービス産業の構造比較（2）～新潟における情  
 報サービス産業関連企業に対する調査報告書」単著、新潟国際情報大学、  
 2007.4  
 ③「日本と北米における情報サービス産業の構造比較～カナダ・アルバータ州  
 立大学Extension学部において倫理委員会の承認を受け実施したアルバータ  
 州エドモントンにおける情報サービス産業関連企業に対する調査報告書」単  
 著、新潟国際情報大学、2006.9  
 ④「概説情報論～情報とは何か～第12回～第1回」単著、2003.10～2002.12  
 知のWebマガジンen、(10) 2003～(12) 2002、  
 (<http://www.shiojigyo.com/en/backnumber/0310/main3.cfm>～  
<http://www.shiojigyo.com/en/backnumber/0211/main3.cfm>)  
 ⑤「商用データベースおよび検索エンジンを使用した情報リテラシー教育とし  
 ての情報検索」単著、2002.3  
 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.5、2002  
 ⑥「時系列データによる疾患と食品摂取量の関連の解析」単著、1999.3.19  
 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.2、205、1999  
 ⑦「情報資源としてのインターネット」単著、1997.10.14  
 第34回情報科学技術研究集会発表論文集、163、1998  
 ⑧「インターネットによる情報検索」共著、1996.10.22  
 第33回情報科学技術研究集会発表論文集、53、1997  
 ⑨「インターネットにおける情報検索」（情報管理 Vol.38、No.10 Jan. 1996）  
 ⑩「水府葉たばこの香気成分に関する研究」（京都大学農学部博士論文 1982）  
 その他の文献 (<http://www.nuis.ac.jp/takagi/>を参照)  
 所属学会 情報システム学会  
 三田図書館情報学会  
 情報処理学会  
 日本栄養・食糧学会  
 日本分類学会  
 その他 (財) バテルメモリアル研究所 客員研究員（1987）  
 情報処理学会情報システムと社会環境研究会運営委員（2001.4～2005.3）  
 情報システム学会理事（2005.4～）  
 アルバータ州立大学 Visiting professor（2005.4～2005.9）



氏名 タケナミ テルユキ 竹並 輝之 TAKENAMI Teruyuki  
 性別 男  
 生年月日 1941年1月29日生  
 職名 教授 (1994年4月)  
 連絡方法 E-mail: takenami@nuis.ac.jp  
 学歴 1963年 慶應義塾大学工学部管理工学科卒業  
 1965年 慶應義塾大学大学院工学研究科管理工学専攻修士課程修了  
 学位 工学修士 (慶應義塾大学、1965年3月)  
 職歴 1965年 (株) 東芝入社。情報システムの開発、プロジェクト管理、セールスサポート等に従事、流通・金融システム事業部システム部長、情報処理・制御システム本部システム担当技師長を歴任し、1994年退職。

研究分野 ビジネス情報システムを開発するための、システム分析、設計、開発方法及びシステム開発プロジェクトの管理方法、情報システムの評価方法の研究を通して、良い情報システムとはどのようなものか、使いやすく、役に立つ情報システムはどのように設計すれば良いかを追究する。また、来たるべきネットワーク社会に対応した企業組織の変化、その中における管理者の役割と行動の変化について研究する。

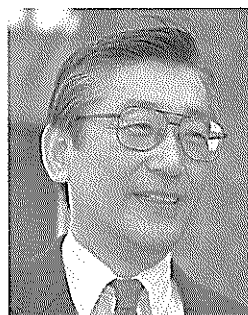
主要業績 著書

- ①『多変量解析の基礎』(共訳) サイエンス社 (1972)
- ②『情報システムハンドブック』(共編) 培風館 (1989)
- ③『応用システム開発の重点解説』(共著) アイテック (1995)
- ④『情報システム基礎』(共著) オーム社 (2006)

論文

- ①「ソフトウェアの標準化」(共著) NTIS (1979)
- ②「産業界が期待する情報システム技術者教育について」私学公論 (1991)
- ③「UNIXベースのクライアント/サーバ大規模ビジネスシステムの構築」情報処理学会 (共著) (1993)
- ④「新潟国際情報大学における情報システム教育の現状と課題」(共著) 情報処理学会情報システムと社会環境シンポジウム (2001)
- ⑤「多人数授業におけるビジネスゲーム型教育の試行」新潟国際情報大学情報文化学部紀要 (2007)

所属学会 情報処理学会  
 三田図書館情報学会  
 情報システム学会



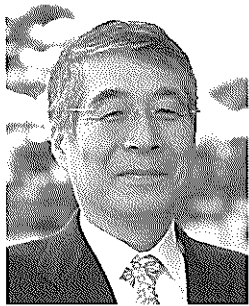
氏名 ツキギ コウイチ 槻木 公一 TSUKIGI Kouichi  
 性別 男  
 生年月日 1946年10月9日生  
 職名 教授(1996年4月)  
 連絡方法 E-mail: tsukigi@nuis.ac.jp  
 学歴 1971年 東京大学工系大学院航空学修士課程修了  
 学位 航空学修士(東京大学、1971年3月)  
 職歴 1993年～1996年(財)鉄道総合技術研究所SI事業推進部長  
 研究分野 情報システム分析設計方法論。座席予約システムやTPモニタなどの応用研究と実システムの開発経験を踏まえ、個人・企業・社会などの組織体と情報処理技術が適切に役割分担あるいは相互補完して、融和一体化した情報システムを構築するための方法論を追及する。特に、利用者の様々な立場を重視するデザインの枠組みや情報システムのモデル作りを進めている。

**主要業績 著書**  
 ①『情報システムの分析と設計』培風館(共訳)1995年

**論文**  
 ①「新潟国際情報大学における情報システム教育の現状と課題」(共著)情報処理学会情報システムと社会環境シンポジウム2001年  
 ②「旅行者中心の旅行支援システムに関する一考察」新潟国際情報大学情報文化学部紀要第8号2005年  
 ③「文芸作品のWebユーザービリティ向上のための情報デザイン」(共著)新潟国際情報大学情報文化学部紀要第9号2006年  
 ④「手のひらサイズの情報システム設計方法の一考察」新潟国際情報大学情報文化学部紀要 第10号2007年

**フィールドワーク等**  
 特許(1905460)指定券発行装置(共案)1987年  
 特許(1444294)高速出札システム(共案)1988年  
 特許(1542849)端末ファイルの保守方式(共案)1990年

**所属学会** 情報処理学会、人工知能学会、情報システム学会  
**その他** 学会活動:情報処理学会理事(1995.5～1997.5)  
 技術士(情報処理部門20500)



氏名  
性別  
生年  
職年  
連月  
絡日  
方名  
学法  
職歴  
位  
職歴

ニシヤマ シゲル

西山 茂 NISHIYAMA Shigeru  
男

1950年7月12日

教授

E-mail: nishiyama@nuis.ac.jp

1975年 電気通信大学大学院電波通信専攻科修了

工学修士

1975年～1980年 日本電信電話公社（現NTT）電気通信研究所にて予測符号器の研究、加入者系の研究に従事

1980年～2002年 NTT研究所及び事業部門で、日本語コンパイラ、ソフトウェア開発環境、ファンクションポイント法を含むソフトウェアメトリクス、ソフトウェア見積法、Web系通信システム（会議システム）、WBT、3D、人事評価システム、電子図書館、指紋認証システムの各研究開発に従事。さらに、ISO9000運用、社内LAN構築運用にも従事

1987年～1988年 NTT研究所在勤中米ボストンに滞在し、米社社員とともにソフトウェア開発環境開発業務に従事

1991年、1992年、1993年、各10月～3月 静岡大学工学部非常勤講師（ネットワーク特論）

2002～2006年 NTTアドバンステクノロジー(株)にて技術営業、各種ソフトウェア開発のPM、情報セキュリティ、ISO9000、プロジェクト品質管理等の業務を推進

2006年7月～2010年3月 新潟市政策企画部・IT政策監として新潟市役所の電子自治体、最適化、品質管理に関する業務に従事

研究分野

①ソフトウェアメトリクス及びソフトウェア開発管理に関する研究

②ネットワーク応用システムに関する研究

主要業績

著書

①「ソフトウェア開発の定量化手法」、共立出版 1993年 共訳

②「ソフトウェア病理学」、共立出版 1995年 共訳

③「ソフトウェアの成功と失敗」、共立出版 1997年 共訳

④「ソフトウェアインスペクション」、共立出版 1999年 共訳

論文

①「ベンダ製品を用いた通信サービスシステムの信頼性評価手法」、電子情報通信学会論文誌 B Vol. J87-B、2004年1月（共著）

②「ネットワークを利用したグループ活動支援技術の動向」NTT R&D Vol.48、No.6、1999年（共著）

③「ファンクションポイント法の有効性と適用性」、第14回日本科学技術連盟品質管理シンポジウム、1994年9月（共著）

④「ファンクションポイント法の効率的適用に関する一考察」、第15回日本科学技術連盟品質管理シンポジウム、1995年9月（共著）

⑤「ファンクションポイント法の計測精度に関する一考察」、第16回日本科学技術連盟品質管理シンポジウム、1996年9月（共著）

⑥「The validity and applicability of function point analysis」、EFPUG、Fourth European Conference on Software Quality、1994（単著）

⑦「Validation of Application Results of COSMIC-FFP to Switching Systems」、ASMA、Australian Conference on Software Metrics (ACOSM)、2003（共著）

⑧「ソフトウェア機能規模測定法最新動向」、SEC journal No.5、IPA、2006年（単著）

⑨「電子会議システム：ニーズの分析と機能性に関する一考察」、電子情報通信学会 オフィスシステム/画像工学研究会、OSF99-30、1999年（共著）

⑩自治体情報システム全体最適化に係る検討、FIT2009、2009年9月（共著）

特許

①特許第1236463号 局内伝送路監視方式（共同出願）

②特許第12317533号 デジタル通信の局内信号方式（共同出願）

③特願平11-327357 インタネットを利用した物品受け取り方法（単独出願）

所属学会

情報処理学会、情報システム学会、電子情報通信学会、IEEE

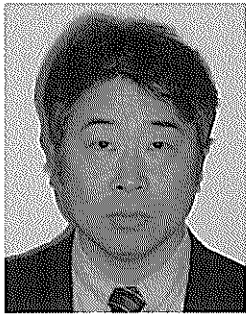
その他

日本ファンクションポイントユーザ会会長（1993年～2006年）、同顧問及び国際化担当参事（2006年～）

情報処理学会規格調査会SC7専門委員会幹事（2000年～2006年）、同SC7専門委員会WG12小委員会主査（1999年～2006年）

ISO/IEC JTC1/SC7/W12 Expert（1993年～2006年）、同Project Editor（ISO/IEC 14143-6 Functional Size Measurement Part 6担当）（2004年～2006年）

日本規格協会ソフトウェア生産管理委員会(機能規模測定)主査（2001～2006年）  
日本科学技術連盟SPC WG6幹事（2004年～2006年）



氏名 フジセ タケヒコ 藤瀬 武彦 FUJISE Takehiko  
 性別 男  
 生年月日 1962年4月22日生  
 職名 教授(2002年4月)  
 連絡方法 E-mail: fujise@nuis.ac.jp  
 学歴 1985年 早稲田大学教育学部教育学科体育学専修卒業  
 1987年 東海大学大学院体育学研究科体育学専攻修士課程修了  
 1992年 東海大学大学院医学研究科機能系専攻博士課程修了  
 学位 体育学修士(東海大学、1987年3月)  
 博士(医学)(東海大学、1992年9月)  
 職歴 1991年4月～1994年3月 東海大学体育学部非常勤講師  
 1994年4月～1998年3月 新潟国際情報大学専任講師  
 1998年4月～新潟国際情報大学助教授  
 2002年4月～新潟国際情報大学教授  
 研究分野 体育学(運動生理学、肥満学、トレーニング科学)  
 主要業績 著書  
 ①『筋力をつくるトレーニング』長澤純一編著「体力とはなにか」、NAP、190-206、2007年  
 論文  
 ① 藤瀬武彦・橋本麻里・長崎浩爾・高橋努「一般青年男女におけるベンチプレスの1RM相対重量での最高反復回数」トレーニング科学、第21巻第2号、225～238、2009年  
 ② 藤瀬武彦・橋本麻里・長崎浩爾・岩垣丞恒・山村雅一「歩行トレーニング時の高濃度酸素ガス吸入が皮下脂肪厚及び体周囲に及ぼす効果」新潟体育学研究、Vol.21、35～45、2003年  
 ③ 藤瀬武彦「日本人及び欧米人女子学生におけるボディイメージの比較」体力科学、第52巻第4号、421～432、2003年  
 ④ 藤瀬武彦・長崎浩爾「青年男女における隠れ肥満者の頻度と形態的及び体力的特徴」体力科学、第48巻第5号、631～640、1999年  
 ⑤ 藤瀬武彦・杉山文宏・加藤健志・岩垣丞恒・山村雅一「持久的運動鍛練者の全身持久力に及ぼす高酸素トレーニングの効果」トレーニング科学、第10巻第2号、87～96、1998年  
 ⑥ 藤瀬武彦・杉山文宏・加藤健志・岩垣丞恒・松本正彦・山村雅一「漸増負荷運動時の高濃度酸素吸入が持久的運動鍛練者の作業成績及び生理的変量に及ぼす効果」トレーニング科学、第9巻第2号、31～38、1997年  
 ⑦ 藤瀬武彦・他「一般青年男女における筋力評価尺度としてのバーベル挙上能力測定を試み」体育学研究、第39巻第6号、403～416、1995年  
 ⑧ Fujise, T., Terao, T., and Nakano, S. 「Effects of endurance training under hyperoxia on serum and tissue lipid levels in rats.」 Tokai J. Exp. Clin. Med., Vol.17, No.2, 67～73, 1992年  
 ⑨ 藤瀬武彦・内山秀一・寺尾 保・中野昭一「ラットの糖・脂質代謝に及ぼす高濃度酸素環境下の持久的トレーニングの影響」体力科学、第40巻第2号、208～218、1991年  
 ⑩ 藤瀬武彦・玉木哲朗・寺尾 保・中野昭一「短時間最大運動時の酸素摂取が作業成績に及ぼす影響」体育学研究、第35巻第2号、133～142、1990年  
 ⑪ 藤瀬武彦・玉木哲朗・寺尾 保・中野昭一「血中乳酸値および酸素負債量による無酸素的運動能力評価法の検討」体力科学、第38巻第3号、85～94、1989年  
 所属学会 日本体育学会・日本運動生理学会・日本体力医学会・日本肥満学会・日本トレーニング科学会  
 その他 新潟県パワーリフティング協会理事(1998年度～)・生涯健康開発特別委員会委員(日本パワーリフティング協会、2006年～)

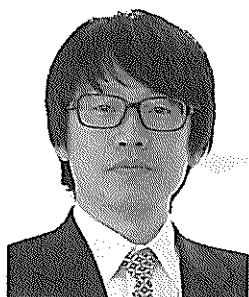


氏名 ヤマグチ ナオト 山口 直人 YAMAGUCHI Naoto  
 性別 男  
 生年月日 1957年3月31日生  
 職名 教授 (2005年4月)  
 連絡方法 E-mail : yamaguti@nuis.ac.jp  
 学歴 1979年 慶應義塾大学工学部管理工学科卒業  
 1996年 東京工業大学大学院社会工学専攻博士課程修了  
 学位 工学士 慶應義塾大学 1979年3月  
 職歴 1979年4月～1999年3月 宇都宮市役所勤務  
 1991年～1993年 東京工業大学工学部非常勤講師  
 1996年～ 日本女子大学人間社会学部非常勤講師  
 2003年4月～2004年3月 ニューイングランド大学客員教授  
 研究分野 専門は、計画学、コンピュータによるデータ解析および都市システム理論ですが、データ解析の純粋な理論を研究するのではなく、現実のデータを用いての実証研究です。長年、行政実務を行って来ましたが、都市計画という立場で、都市や地域をデータによって解析するという仕事を中心でした。政策を立案して検討・協議することを科学的に行うために、都市システムモデルというものを学び、都市シミュレータを作成して来ましたが、当時はコンピュータ単体上で単独で動かすものだったために、行政の現場に定着することは難しい状況でした。その後、その都市シミュレータを中心として、データベースやプレゼンテーションツールを統合し、さらにネットワークシステムとして、多くの人(担当者)が使えるようにするための研究をして来ました。これからは、行政内のシステムから地域社会へも範囲を広げて、地域の人たちと接しながら、行政計画を立案し策定するシステムを研究したいと考えています。  
 主要業績 論文  
 ① 熊田、兼田、五十嵐、山口 (1990) 「Gaming/Simulation to Create Planning Culture」 ISAGA/NASAGA  
 ② 山口 (1991) 「地方自治体における計画策定支援システムの整備方策」 日本都市情報学会  
 ③ 山口 (1991) 「地方都市における住民の居住環境評価の構造と空間分布」 日本地域学会  
 ④ 山口、五十嵐 (1993) 「計画策定支援型都市情報システムの核としての都市システムモデルの開発に関する研究」 日本都市情報学会  
 ⑤ 山口 (2000) 「日本の地方自治体におけるGISの現状と整備要件」 新潟国際情報大学 紀要第3号  
 ⑥ 山口 (2000) 「町丁目データによる人口移動分析」 統計第51巻第2号  
 ⑦ 山口 (2001) 「地方自治体ホームページと統計情報提供の現状」 統計第52巻第8号  
 ⑧ 山口 (2004) 「GIS活用における小地域データ整備の現状と展望」 統計第55巻第8号  
 所属学会 日本統計学会  
 日本地域学会  
 人文地理学会  
 日本都市計画学会  
 日本社会情報学会  
 地理情報システム学会  
 その他 2001年～ 宇都宮地域情報化専門会議委員長  
 2001年～2002年 新潟県IT&ITS推進協議会  
 地域情報化文化委員会電子自治体検討部会長



氏名 イシイ タダオ 石井 忠夫 ISHII Tadao  
 性別 男  
 生年月日 1955年11月3日生  
 職名 准教授 (2001年4月)  
 連絡方法 E-mail : ishii@nuis.ac.jp  
 学歴 1980年 山形大学工学部電子工学科卒業  
 2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報処理学専攻博士後期課程修了  
 学位 工学修士 (山形大学、1982年3月)  
 博士 (情報科学 北陸先端科学技術大学院大学、2000年3月)  
 職歴 1982年 日立製作所 入社、計測器事業部 (旧、那珂工場) において、理化学  
 分析装置のコンピュータソフトウェア設計開発に従事。主に、蛍光/分光光度計、  
 液体クロマト分析装置等の製品を担当し、1989年に同社の技師、1994年に退社。  
 2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教務補佐員。  
 研究分野 1) 非標準論理、特にnon-Fregean logicの体系の研究  
 2) 構成的型理論に基づいたソフトウェア発展機構の研究  
 3) 量子計算の体系の研究  
 主要業績 論文  
 ① 「Propositional calculus with identity」, Bulletin of the Section of Logic,  
 University of Lodz, vol.27, Nr.3, 1998, pp.96-104.  
 ② 「A note on varieties of PCI-algebras with EDPC」, Bulletin of the Section of  
 Logic, University of Lodz, vol.28, Nr.2, 1999, pp.75-81.  
 ③ 「Propositional calculus with identity」, Proceedings of the 31st MLG  
 meeting at Miho, Shimizu, November 24-26, Japan 1997, pp.22-24.  
 ④ 「Modality, implication and identity」, XLV History of Logic Conference,  
 October 26-27, Jagiellonian University, Krakow, Poland 1999.  
 ⑤ 「An Extension of Martin-Lof's Type Theory with an Evolution  
 Relation」, Proceeding of the 34th MLG meeting at Echigo-Yuzawa, January  
 9-12, Japan 2001, pp.33-37.  
 ⑥ 「A formal theory of the calculus of indication」, Bulletin of NUIS, Vol.9, 2006.  
 ⑦ 「ソフトウェア仕様の差分について」, Bulletin of NUIS, Vol.10, 2007.  
 ⑧ 「ソフトウェア仕様とプログラムの導出」, Bulletin of NUIS Vol.12, 2009  
 ⑨ 「構成的型理論に基づいた定理証明プログラムの試作」, Journal of NUIS,  
 Vol.13, 2010.  
 所属学会 日本数学会  
 日本ソフトウェア科学会  
 情報処理学会  
 情報システム学会





イシカワ ヒロシ

氏名 石川 洋 ISHIKAWA Hiroshi

性別 男

生年月日 1963年6月24日生

職名 准教授 (2008年4月)

連絡方法 E-mail : ishihiro@nuis.ac.jp

学歴 1986年 静岡大学理学部数学科卒業  
1989年 金沢大学大学院理学研究科修了  
1998年 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了

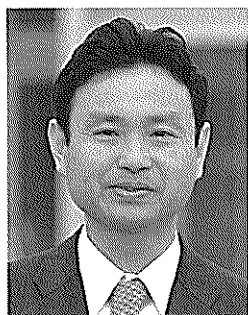
学位 博士 (情報科学 北陸先端科学技術大学院大学, 1998年3月)

職歴 1989年4月 株式会社CSK総合研究所入社, エキスパートシステム開発に従事  
1992年9月 株式会社CSKへ転籍, 同年12月退社  
1998年4月 福山大学工学部情報処理工学科 助手  
2004年4月 同 専任講師  
2007年4月 福山大学人間文化学部メディア情報文化学科 専任講師 (配置換え)

研究分野 ①並行自己反映計算の宣言的記述に関する研究  
②形式仕様言語による記述の自動検証に関する研究

主要業績 論文  
① An Example for Concurrent Reflective Computations in Rewriting Logic, First IFIP Workshop on Formal Methods for Open Object-based Distributed Systems, pp.178-185 (1996)  
② On the Semantics of GAEA, Proceedings of FLOP, pp.123-142 (1998)  
③ An Operational Semantics of GAEA in CafeOBJ, Proceedings of OBJ/CafeOBJ/Maude Workshop at FM' 99, pp.213-225 (1999)  
④ Z仕様から代数仕様への自動変換に関する考察, 第20回ソフトウェアシンポジウム論文集, pp.31-38 (2000)  
⑤ A Proposal on a Model of an Autonomous Agent using the Meta-Level Architecture, Proceedings of KIMAS 2003, pp.83-87 (2003)  
⑥ A Specification Construction Unit-based editor for Z, Proceedings of 29th COMPSAC Workshops and Fast Abstract, pp.5-6 (2005)  
⑦ On a GUI-based editor for Z Specifications and its Applications, Proceedings of SERP' 06, Volume II, pp.636-642 (2006)  
⑧ An Object-Oriented Design for Origami Activities in UML, Proceedings of ITC-CSCC 2007, Volume 1, pp.33-34 (2007)  
⑨ An Approach for Refactoring using ESC/Java2 -A Simple Case Study-, NEW TRENDS IN SOFTWARE METHODOLOGIES, TOOLS AND TECHNIQUES, pp.61-72 (2009)

所属学会 日本ソフトウェア科学会, 情報処理学会, 電子情報通信学会, 人工知能学会, 日本数式処理学会, 情報システム学会  
ACM, IEEE



氏名 オオノ トミヒコ 大野 富彦 OHNO Tomihiko  
 性別 男  
 生年月日 1969年4月19日生  
 職名 准教授（2008年9月）  
 連絡方法 E-mail : ohno@nuis.ac.jp  
 学歴 1993年 明治大学法学部法律学科卒業  
 2001年 産能大学大学院経営情報学研究科（MBA課程）修了  
 2008年 中央大学大学院総合政策研究科総合政策専攻博士後期課程修了  
 学位 博士（総合政策、中央大学、2008年3月）  
 職歴 1993年4月～1999年9月 株式会社富士総合研究所  
 2001年3月～2008年9月 株式会社ビー・リンク  
 2005年4月～2009年3月 千葉商科大学商経学部非常勤講師  
 2006年4月～2008年3月 嘉悦大学経営経済学部非常勤講師  
 2009年4月～ 中央大学政策文化総合研究所客員研究員  
 研究分野 経営戦略論、組織の経済学、オーストリア学派経済学の知見をもとにして以下の研究を進めている。  
 ①企業家を中心に据えた企業の成長に関する研究  
 ②企業組織における知識（特に顧客の声）の獲得・蓄積・活用に関する研究  
 主要業績 著書  
 ①『インターネット時代のWeb営業戦略』（共著）、明日香出版社、2000年。  
 ②『図解でよくわかるIT用語とそのしくみ』、アスカ・エフ・プロダクツ、2000年。  
 ③『「MBA感覚（センス）」で行動する技術』、PHP研究所、2004年。  
 論文  
 ①「顧客関係の新展開 — 資源としての顧客に着目した戦略に関する研究 —」  
 『経営情報学会誌』、第15巻 [第3号]、pp.25-35、2006年。  
 ②「ペンローズの企業成長理論の発展的検討 — 顧客活用の意義について —」  
 『中央大学大学院研究年報総合政策研究科篇』、第10号、pp.113-127、2007年。  
 ③「資源としての顧客に着目した企業成長に関する研究—企業家の知識の成長と組織問題—」、中央大学大学院総合政策研究科博士論文、2008年。  
 ④「企業経営における企業家像と企業家養成のフレームワーク —Penrose的企業家とHarper的企業家の関連性および『日常の理論』からの検討—」  
 『経営情報学会誌』、第18巻 [第3号]、pp.287-300、2009年。  
 所属学会 経営情報学会、日本経営学会、組織学会、国際戦略経営研究学会  
 その他 中小企業診断士（1998年4月～）  
 社団法人私立大学情報教育協会経営学教育FD/IT活用研究委員会委員（2008年12月～）



氏名 小野 陽子 ONO Yoko  
性別 女

職名 准教授 (2009年4月)  
連絡方法 E-mail : onoyk@nuis.ac.jp

学歴 1996年 東京理科大学工学部経営工学科卒業  
1998年 東京理科大学大学院 工学研究科 修士課程 経営工学専攻修了  
2001年 東京理科大学大学院 工学研究科 博士課程 経営工学専攻修了

学位 博士 (工学)、(東京理科大学、2001年3月)

職歴 2001年4月～2004年3月 東京理科大学 助手  
2004年4月～2005年3月 島根県立大学 講師

研究分野 計算機統計学、代数の形式化と計算機上での自動証明システム構築

主要業績 論文

- ① An Application of the Formal method to Statistics, Kobayashi, H. and Ono, Y., Proc. of 2009 International Symposium on Computing, Communication, and Control (2009) 238-241.
- ② Comparison a human proof with a proof in Isabelle, Ono, Y and Kobayashi, H, Proc of the 2nd Workshop on Programming Languages for Mechanized Mathematics Systems, (2008) 29-40.
- ③ On Comparison of P-values for Contingency Tables between MCMC and Direct Sampling, Bulletin of the 56rd Session of the International Statistical Institute (2007)
- ④ Continous Bootstrapping, Niki, N. and Ono, Y., Proc. in Computational Statistics, Physcs-Verlag, 1075-1078 (2006)
- ⑤ Formalization of Hensel's Lemma, Kobayashi, H., Suzuki, H. and Ono, Y., Theorem Proving in higher Order Logics, Oxford University Computing Laboratory Programming Research Group Research Report PRG-RR-05-02 (2005) 114-127.
- ⑥ Random generation of  $2^x \cdots x 2^x J$  contingency tables, Matsui T., Matsui Y. and Ono, Y., Theoretical Computer Science 326 (2004) 117-135.
- ⑦ On Computer Education in Japan, Ono, Y. and Asahi, Y., Proceedings of the International Conference the Humanistic Renaissance in Mathematics Education (2002) 285-287.
- ⑧ Symbolic Algorithms for obtaining Moments and "Moments of Moments" of Bootstrap Distributions, Ono, Y. and Niki, N., Journal of Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation, vol.8, No.2 (2001) 37-48
- ⑨ Random Generation of  $B_m \times$  Contingency Tables, Matsui, T., Matsui, Y. and Ono, Y., Proceedings of the International Conference on Statistics, Combinatorics and Related Areas (2001)
- ⑩ Product Moments of Nested Bootstrap Distributions, Ono, Y. and Niki, N. Bulletin of the 53rd Session of the International Statistical Institute (2001)

訳本

- ① 「応用Mathematica」 (2004年9月、新紀元社)

所属学会 日本統計学会、日本計算機統計学会、日本数学会

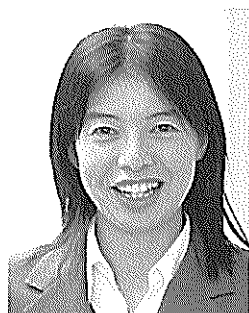


氏名 コミヤマ サトシ 小宮山 智志 KOMIYAMA Satoshi  
 性別 男  
 生年月日 1969年5月3日生  
 職名 准教授 (2004年4月)  
 連絡方法 E-mail: komiyama@nuis.ac.jp  
 学歴 1994年 中央大学文学部社会学科卒業  
 1996年 中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士前期課程修了  
 1999年 中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程中退  
 学位 社会学修士 (中央大学、1996年3月)  
 職歴 1999年 中央大学文学部社会学科非常勤講師  
 研究分野 2007年度より文部科学省の科学研究費補助金の交付をうけ「職業における“楽しみ”の階層研究」を行っております。どのような仕事もつらい面、楽しい面がありますが、楽しい面が一部の人々に偏りがちになっているのではないかと、楽しい面を多くの人々に配分するためにはどのようにしたら良いか、研究しております。統計的な質問紙調査、少数事例の聞き取り調査などを組み合わせ、取り組んでおります。その他、以下の主要文献のようなテーマを扱っております。

#### 主要業績 論文

- ① 「モータリゼーションが発達した地方都市における消費者の店舗選択要因の解明」(新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第11号 pp.31-39 2008年)
- ② 「コンピュータ活用の差異がE-Learningの評価に及ぼす影響」(新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第10号 pp.99-106 2007年)
- ③ 「階層線形モデルによる“地域不公平感”の分析」(新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第6号 pp.161-178 2004年)
- ④ 「Perception of “effort,” “Ability,” and “Equal Opportunity” in Japanese Society」(M.Miyano (ed.) Japanese Perception of Social Justice:How Do They figure out What Ought to Be, Ministry of Education, Sports and Culture Grant-in-Aid for Scientific Research (B) Report, 09410050, 2000 pp.87-100)
- ⑤ 「三条・燕市製造業者間のデジタルデバイド」(新潟国際情報大学情報文化学部 紀要 第6号 pp.103-121 2003年)
- ⑥ 「不公平感の地域格差におけるマルチレベル分析の応用」(紀要 中央大学文学部社会学科第10号 pp.199-213 2000年)
- ⑦ 「消費税・所得税に関する世論についての試論的研究」(社会科学研究所年報 第3号 pp.67-79 1999年)
- ⑧ 「日本の公正地図」(宮野勝 [編] 『公平感と社会階層』 科研報告書 pp.195-214 1998年)
- ⑨ 「新聞における公正」(宮野勝 [編] 『日本人の公正観』 中央大学社会科学研究所報告書 第17号 pp.193-202 1996年)
- ⑩ 「公正観の深層理解:自由面接データの分析」(宮野勝 [編] 『社会的公正の研究:理論実証・応用』 科研報告書 pp.154-165 1996年)

所属学会 数理社会学会  
 日本社会学会  
 関東社会学会  
 日本行動計量学会



氏名 佐々木 桐子 SASAKI Toko  
 性別 女  
 生年月日 1972年2月22日生  
 職名 准教授 (2008年4月)  
 連絡方法 E-mail : tohko@nuis.ac.jp  
 学歴 1994年 東洋大学経営学部経営学科卒業  
 1996年 東洋大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程修了  
 1996年4月～1998年3月 名古屋大学大学院経済学研究科大学院研究生  
 2001年 名古屋大学大学院人間情報学研究科博士後期課程満期退学  
 学位 経営学修士 (東洋大学、1996年3月)  
 職歴 2005年～ 新潟大学経済学部非常勤講師  
 研究分野 生産システム、ロジスティクスシステム、および道路交通システムなどを対象とし、シミュレーション技術を応用した詳細かつ柔軟なモデル構築および解析を行っている。  
 また、動機付け教育を目的として、シミュレーション技術を活用した学習支援システムの開発および運用、さらには出席管理を効率的、効果的に行う授業支援システムの開発に携わっている。

主要業績 論文

- ① 「ロジスティクスにおけるリエンジニアリング」(単著)『東洋大学大学院紀要』第32集, pp.111-137, 1995.
- ② 「配車・費用を考慮したロジスティクスシミュレーションのモデル化と解析」(単著)『オフィス・オートメーション』Vol.18, No.4-2, pp.99-102, 1997.
- ③ 「生産・物流システムシミュレーションのモデル化と解析」(単著)『オフィス・オートメーション』Vol.18, No.4-2, pp.133-136, 1998.
- ④ 「ロジスティクスシステムのシミュレーションモデリングと解析」(単著)『オフィス・オートメーション』Vol.20, No.3, pp.76-82, 2000.
- ⑤ "A Module-Based Simulation Modeling and Management for Supply Chain Systems on Daily Commodities", Studies in Informatics and Sciences, No.13, pp.81-89, 2001.
- ⑥ 「動機付け教育を目的としたe-Learningコンテンツの開発」(単著)『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第9号, pp.131-138, 2006.
- ⑦ 「高等学校における教科「情報」に関する実態調査および大学入学時の情報リテラシー能力の変化」(単著)『オフィス・オートメーション』Vol.27, No.2, pp.69-75, 2006.
- ⑧ 「シミュレーション演習におけるe-Learningおよび協調学習の適用」(単著)『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第10号, pp.107-112, 2007.
- ⑨ 「授業支援システム開発 ～出席管理のすすめ～」(単著)『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』第12号, pp.151-162, 2009.
- ⑩ 「指静脈認証による出席管理システムの開発」(単著)『日本情報経営学会学会誌』vol.29, No.4, pp.49-55, 2009.

所属学会 日本情報経営学会 (旧オフィス・オートメーション学会)  
 日本経営システム学会  
 情報システム学会  
 バイオメディカル・ファジィ・システム学会

その他 社団法人私立大学情報教育協会経営工学教育IT活用研究委員会委員 (2005.7 ～)  
 新潟市個人情報保護審議会委員 (2007.4 ～)



氏名 ニノセ ユリ 二瀬 由理 NINOSE Yuri  
 性別 女  
 生年月日 1969年9月10日生  
 職名 准教授 (2009年4月)  
 連絡方法 E-mail: nino@nuis.ac.jp  
 学歴 九州大学文学部哲学科心理学専攻 卒業  
 九州大学大学院文学研究科心理学専攻修士課程 修了  
 学位 博士 (文学) (九州大学、1999年3月)  
 学歴 1998年～2000年 日本学術振興会特別研究員 (DC2:九州大学)  
 2000年～2002年 日本学術振興会特別研究員 (PD:東北大学)  
 2001年～2002年 東北福祉大学兼任講師  
 2002年～2007年 福岡大学工学部電子情報工学科 助手  
 2003年～2007年 福岡大学付属看護専門学校非常勤講師 兼任  
 2003年～現在 九州大学文学部非常勤講師 兼任  
 2005年～2009年 九州産業大学国際文化学部非常勤講師 兼任  
 2007年～2009年 福岡大学工学部電子情報工学科 助教

研究分野 認知心理学、実験心理学

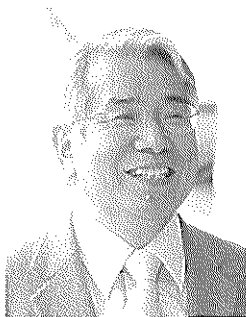
主要業績 論文

- ① 持続的注視による漢字認知の遅延 — ゲシュタルト崩壊現象の分析 — (共著) 1996年8月 心理学研究, 67巻, p227-231
- ② パターン認知に及ぼす持続的注視の影響 (共著) 1997年7月 Vision, 9巻, p163-171
- ③ 持続的注視が漢字認知におよぼす影響とその方位依存性 (共著) 1998年3月 基礎心理学研究, 16巻, p69-75
- ④ 両耳分離聴法による空主語判定プロセスの分析 (2) — 語順の効果 — (共著) 1998年3月 認知科学, 5巻, p82-88
- ⑤ 映像認知における文字情報と音声情報の統合—人物評価値を指標として— (共著) 2000年11月 信学技法 HIP2000-43, p63-66
- ⑥ Effects of short and prolonged viewing of adaptation patterns on the recognition of compound letter patterns. (共著) 2002年3月 Tohoku Psychologica Folia, 59, p60-66
- ⑦ 持続的注視による漢字認知の遅延とその生起要因の分析 (共著) 2002年8月 心理学研究, 73巻, p264-269
- ⑧ The effect of prolonged viewing on the recognition of global and local levels of hierarchically constructed patterns. (共著) 2003年3月 Acta Psychologica, 112, p233-242
- ⑨ コンピュータによるウソの自動判別 (単著) 2007年8月 現代のエスプリ—嘘の臨床・嘘の現場—, 第481号, p197-205, 至文堂

著書

- ① 新・心理学の基礎知識 (執筆分担) 2005年1月 第5章 記憶・認知の一部 担当 有斐閣ブックス

所属学会 日本心理学会、日本認知心理学会、日本基礎心理学会、九州心理学会、東北心理学会、日本認知科学会



氏名 ヨシダ ヒロシ 吉田 博 YOSHIDA Hiroshi  
 性別 男  
 生年月日 1943年3月8日生  
 職名 准教授 (2006年4月)  
 連絡方法 E-mail : hyoshida@nuis.ac.jp  
 学歴 1966年 東京工業大学理工学部経営工学科卒業  
 学位 工学士 (東京工業大学 1966年3月)  
 職歴 1966年～1972年 三共株式会社  
 1972年～1987年 住友ビジネスコンサルティング株式会社 (現 日本総合研究所)  
 マーケティング事業部長  
 1987年～2006年 エムアイシー (Marketing Innovation Consulting) 代表  
 2005年～2006年 日本福祉大学情報社会科学部 非常勤講師  
 研究分野 ① 地域・地場産業の振興と産官学の連携 (地域ブランド戦略、製品企画・情報  
 発信・販売の展開)  
 ② 非営利組織 (行政、福祉、NPO等) のマーケティング  
 ③ 起業・ベンチャービジネス  
 主要業績 著書  
 ① 「絞込み思考の技術」 (共著) (1985年、経済界)  
 ② 「地域とマーケティング」 (共著) (1992年、国元書房)  
 ③ 「仲間と暮らす家づくり」 (共著) (1994年、日経BPセンター)  
 論文  
 ① 「地域活性化に向けてのベンチャー起業の育成・支援」  
 (1997年総合研究開発機構 NIRA政策研究1997 VOL10)  
 ② 「地域ブランドと地域活性化ー盛岡ブランドの展開ー」  
 (2007年5月新潟国際情報大学情報文化学部紀要第10号)  
 ③ 「新潟市らしい地産地消の推進に向けて」 (2008年3月 新潟市大学連携事  
 業「地産地消のための調査及び検証」)  
 所属学会 日本NPO学会  
 日本中小企業学会  
 その他 ・三条市優しい「まちなか」創造協議会 (会長)  
 ・東京都墨田区商工業アドバイザー  
 ・東京都荒川区異業種交流アドバイザー  
 ・東京都台東区「台東区産業振興ビジョン策定委員会」 (産業部会長)  
 ・岩手県盛岡地域地場産業振興センター専門委員  
 ・独立法人中小企業基盤整備機構「地域ブランドアドバイザー」 (岩手県盛岡ブ  
 ランド)  
 ・東京都「東京都老人総合研究所中期経営計画検討委員会」 (委員)  
 ・東京都町田市社会福祉協議会「財源確保研究会」 (座長)  
 ・東京都港区「福祉施設事業者候補選定委員会」 (委員長)  
 ・東京都港区「指定管理者候補選定委員会」 (委員)  
 ・国土庁ネオふるさと創造プログラム「人間村宝」企画 (新潟県大島村にて実施)



氏名 カワハラ カズヨシ 河原 和好 KAWAHARA Kazuyoshi  
 性別 男  
 生年月日 1969年9月8日生  
 職名 講師 (1999年4月)  
 連絡方法 E-mail : kawahara@nuis.ac.jp  
 学歴 1993年 信州大学工学部情報工学科卒業  
 1995年 信州大学大学院工学系研究科博士前期課程情報工学専攻修了  
 1998年 信州大学大学院工学系研究科博士後期課程システム開発工学専攻修了  
 学位 博士 (工学) (信州大学、1998年3月)  
 職歴 1998年4月～1999年3月 岐阜大学バーチャルシステム・ラボラトリー非常勤研究員  
 研究分野 画像処理に関する研究。ファジィ理論の画像処理への応用、コンピュータビジョン (ロボット)、3次元画像処理。  
 主要業績 論文  
 ① 「FINITE TOPOLOGY BASED ON FUZZY TEMPLATES AND ITS APPLICATIONS」 (共著)、1994年11月、Proc.of the 1st MAGNETO-ELECTRONICS International Symposium、pp.461-464  
 ② 「Image Processing with Fuzzy Set Theory」 (共著)、1995年12月 Second Asian Conference On Computer Vision (ACCV'95)、Vol. I、pp.494-498  
 ③ 「ファジィ理論を用いた画像処理」 (共著)、1997年1月、電子情報通信学会論文誌 D-II、Vol.J80-D-II、No.1、pp.166-174  
 ④ 「Image Processing using Mathematical Morphology and Topology with Fuzzy Set」 (共著)、1997年12月、Proc.of International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA'97)、Vol.2、pp.1013-1016  
 ⑤ 「Fuzzy Image Processing with Topological Theory」 (共著)、1997年12月 Proc.of IEEE TENCON'97 (IEEE Region 10 Annual Conference) Speech and Image Technologies for Computing and Telecommunications、Vol.1 pp.333-334  
 ⑥ 「Edge Analysis of Digital Mammogram」 (共著)、1999年10月、Proc.of 2nd MAGNETO-ELECTRONICS International Symposium、pp.339-342  
 ⑦ 「ファジィ理論を用いた画像の特徴抽出」 (単著)、2005年3月、新潟国際情報大学情報文化学部紀要第8号、pp.169-178  
 所属学会 電子情報通信学会  
 情報処理学会  
 医用画像学会



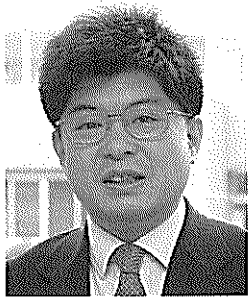


氏名 ナカダ トヨヒサ 中田 豊久 NAKADA Toyohisa  
 性別 男  
 生年月日 1970年11月5日生  
 職名 講師 (2008年4月)  
 連絡方法 E-mail: nakada@nuis.ac.jp  
 学歴 1993年 東京工科大学機械制御工学科卒業  
 2006年 北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士後期課程修了  
 学位 博士 (知識科学) (北陸先端科学技術大学院大学、2006年3月)  
 職歴 1993年 NECロボットエンジニアリング株式会社  
 1996年 株式会社日本総研テクノス  
 1997年 株式会社ソリトンシステムズ  
 2003年 株式会社本田技術研究所  
 2006年 北陸先端科学技術大学院大学 産学官連携研究員

研究分野 ① コピキタスコンピューティングに関する研究  
 ② 社会的ネットワーク分析の応用研究

主要業績 論文  
 ① 中田豊久, “画像による行き先掲示板システム”, グループウェアとネットワークサービス・ワークショップ2009, pp.75-80, Sep. 17-18, (2009)  
 ② 中田豊久,加藤義彦,國藤進, “友人ネットワークの状態遷移図による分析”, 情報処理学会論文誌 数理モデル化と応用, Vol.2 No.1 pp-87-97, (2009)  
 ③ 中田豊久,金井秀明,國藤進: 「スポットライトを用いた屋内での探し物発見支援システム」, 情報処理学会論文誌, Vol.48 No.12, pp.3962-3976 (2007) .  
 ④ Toyohisa Nakada, Yoshihiko Kato, and Susumu Kunifuji: 「A Study on the Dynamics of Friendship Network Formation Using a Directed Network Model」, The 2nd International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support Systems (KICSS 2007), pp.72-79 (2007) .  
 ⑤ 中田豊久,伊藤日出男,國藤進: 「ベイジアンネットワークを用いた画像解析による同期信号の判別」, 日本知能情報ファジィ学会論文誌, Vol19 No.5, pp.488-498 (2007) .  
 ⑥ 中田豊久,加藤義彦,國藤進: 「友人関係ネットワークの成長過程についての分析」, 日本ソフトウェア科学会 ネットワークが創発する知能研究会 JWAIN07 情報処理学会 数理モデル化と問題解決研究会 第13回MPSシンポジウム 合同ワークショップ, pp.24-31 (2007) .  
 ⑦ Toyohisa Nakada, Hideaki Kanai, and Susumu Kunifuji: 「Dynamic Book Recommendation Model for Real Bookstores」, In Adjunct Proceedings of The 5th International Conference on Pervasive Computing (Pervasive 2007), pp.53-56 (2007) .  
 ⑧ 中田豊久,金井秀明,國藤進: 「実世界での利用を考慮した図書推薦モデルの提案と評価」, 情報処理学会論文誌, Vol. 48 No. 1, pp.148-162 (2007).  
 ⑨ 中田豊久,國藤進: 「個人ホームページからのサブグループ発見手法の提案」, 日本創造学会論文誌, Vol.9, pp.42-59 (2005).  
 ⑩ Toyohisa Nakada, Hideaki Kanai, and Susumu Kunifuji: 「A Support System for Finding Lost Objects using Spotlight」, 7th International Conference on Human Computer Interaction with Mobile Devices and Services (MobileHCI 2005), pp.321-322 (2005) .

所属学会 情報処理学会 電子情報通信学会 人工知能学会 日本創造学会



氏名 ヤマシタ イサオ 山下 功 YAMASHITA Isao  
 性別 男  
 生年月日 1972年12月14日生  
 職名 講師 (2007年9月)  
 連絡方法 E-mail : iyamashi@nuis.ac.jp  
 学歴 1996年3月 横浜国立大学経営学部会計・情報学科卒業  
 1998年3月 横浜国立大学大学院経営学研究科修士課程修了  
 学位 修士 (経営学) (横浜国立大学, 1998年3月)  
 職歴 1998年3月～2003年4月 ミツミ電機株式会社 経理部  
 研究分野 複数企業間での連携における戦略的原価管理の研究  
 主要業績 論文  
 ① 「マークシートによる授業支援システムの費用対効果：新潟国際情報大学における試行導入事例」, 『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』, 第13号 (2010年3月), pp.115-123.  
 ② 「企業間連携における原価管理 組立型総合電子部品メーカーの事例研究」, 『財務管理研究』, 第16号 (2005年12月), pp.101-110.  
 ③ 「企業間原価管理の事例研究 組立型総合電子部品メーカーの事例」, 『横浜国際社会科学研究所』, 第9巻第6号 (2005年2月), pp.95-112.  
 ④ 『電力事業における原価管理』, 横浜国立大学大学院経営学研究科修士論文, 1998年.  
 所属学会 日本原価計算研究学会  
 日本管理会計学会  
 日本財務管理学会  
 日本会計研究学会

## 新潟国際情報大学研究者総覧 2010

2010年4月 発行

編集：新潟国際情報大学 総務課

発行：新潟国際情報大学

新潟市西区みずき野3丁目1番1号 〒950-2292

TEL.025-239-3111

FAX.025-239-3690



新潟国際情報大学  
Niigata University of International and Information Studies

950-2292 新潟市西区みずき野3丁目1番1号

TEL.025-239-3111 FAX.025-239-3690

✉ somu@nuis.ac.jp 🌐 <http://www.nuis.ac.jp/>